

令和2年度 老人保健事業推進費等補助金  
老人保健健康増進等事業

**認定調査員初任者の指導方法等に係る  
調査研究事業  
報告書**

令和3年（2021）年4月  
みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社



## ～目次～

<b>第1章 調査概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の背景 .....	1
2. 調査の目的 .....	1
<b>第2章 認定調査の基本的な考え方</b> .....	<b>2</b>
1. 介護保険制度における認定調査の重要性 .....	2
2. 3つの評価軸について .....	4
(1) 能力の項目 .....	4
(2) 介助の方法の項目 .....	5
(3) 有無の項目 .....	7
<b>第3章 認定調査員の理解度</b> .....	<b>10</b>
1. e-ラーニングシステムの概要 .....	10
2. 「全国テスト」の結果概要 .....	10
(1) 全体の正答率 .....	11
(2) 回答者の属性別の正答率 .....	12
(3) 経験年数別の正答率 .....	14
<b>第4章 認定調査員 初任者研修ツール</b> .....	<b>19</b>
<b>第5章 認定調査員 評価シート</b> .....	<b>60</b>



# 第1章 調査概要

---

## 1. 調査の背景

- 介護保険は、介護サービス利用に関する国民の権利を普遍的に保障する全国的な制度であり、要介護認定（要支援認定を含む。以下同じ。）は全国どこで申請しても統一された基準に基づいて審査されることが基本原則となっている。
- しかし自治体によっては、認定調査の基本調査において適切でない選択が行なわれていたり、特記事項の記載内容の不備によって審査判定が困難になっていたり、さらには介護認定審査会の審査判定手順が適切でなかったり、といった問題も散見されている。
- このような状況のもと、介護保険部会（※）においても「認定調査の均てん化をさらに進める」「認定調査委員の質の確保に留意する必要がある」との指摘があり認定調査員に対する指導と質の向上は喫緊の課題となっている。

※介護保険部会「介護保険制度の見直しに関する意見」（令和元年12月27日）

- 現在認定調査員は、都道府県または政令指定都市が行う認定調査員研修を修了することで認定調査実務に携わることができるが、市町村においても認定調査員の経験等に応じて必要な指導を行っているケースもある。
- また令和2年度からは、指定市町村事務受託法人において、介護支援専門員以外の者も認定調査を行えるようになることから、特に「認定調査員初任者」への指導をこれまで以上に充実させ、全国における公平・公正かつ適切な認定調査を推進していくことが必要とされている。

## 2. 調査の目的

- そこで本調査研究においては、全国における公平・公正かつ適正な認定調査を推進するために、特に認定調査員初任者が早期に一定水準の調査が行えるようになるためのツールを開発し、あわせて個々の認定調査員初任者がスキルアップすべき事項が分かるような評価ツールも開発することを目的として実施した。

## 第2章 認定調査の基本的な考え方

### 1. 介護保険制度における認定調査の重要性

- 要介護認定は、一次判定ソフトによる判定から、介護認定審査会における認定まで、原則として、要介護認定等基準時間と呼ばれる介護の手間の判断によって審査が行われるものである。
- 最初の段階となる一次判定では、認定調査における基本調査74項目の結果から、要介護認定等基準時間や中間評価項目の得点を算出し、さらに当該高齢者（申請者）における要介護度の結果が示される。
- この申請者の状態を把握するための調査項目については、「能力」、「介助の方法」、「障害や現象（行動）の有無」といった3つの評価軸が、そして全ての調査項目には、このうちいずれかの評価軸にそった選択基準が設けられている。またこの選択の基準については、観察・聞き取りに基づく客観的なものであることが明示されており、その選択基準は「認定調査員テキスト2009改訂版」に示されている。

	能力	介助の方法	有無
主な調査項目	身体的能力 (第1群を中心に10項目) 認知的能力 (第3群を中心に8項目)	生活機能 (第2群を中心に12項目) 社会生活への適応 (第5群を中心に4項目)	麻痺等・拘縮 (第1群の9部位) BPSD関連 (第4群を中心に18項目)
選択肢の特徴	「できる」「できない」の表現が含まれる	「介助」の表現が含まれる	「ない」「ある」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	試行による本人の能力の評価	介護者の介助状況 (適切な介助)	行動の発生頻度に基づき選択(BPSD)※
特記事項	日頃の状況 選択根拠・試行結果 (特に判断に迷う場合)	介護の手間と頻度 (介助の量を把握できる記述)	介護の手間と頻度(BPSD)※
留意点	実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合 「日頃の状況」の意味にも留意する	「実際に行われている介助が不適切な場合」	選択と特記事項の基準が異なる点に留意 定義以外で手間のかかる類似の行動等がある場合(BPSD)※

- 要介護認定を行う介護認定審査会に提出される情報としては、認定調査結果と主治医意見書とがある。つまり認定調査員は介護認定審査会に対して、実際に申請者を目の当たりにして審査に必要な情報を提供する立場にある。
- このように認定調査の結果が要介護認定の最も基本的な資料であることから、認定調査は全国一律の方法によって、公平公正で客観的かつ正確に行われる必要がある。さらに、認定調査員は、調査対象者の介護の手間を適正に評価し、必要に応じて、特記事項に調査対象者の介護の手間を理解する上で必要な情報をわかりやすく記載する必要がある。
- そこで認定調査員に対しては、要介護認定（含、要支援認定）における公平・公正かつ適切な認定調査を実施するために必要な知識、技能を修得及び向上させることを目的とした研修を受講することが求められている（実施主体は都道府県及び政令指定都市）。
- なおその研修において特に新たに認定調査に従事する者および認定調査に従事することが予定される者に対しては、下記の項目を内容とした研修が求められている。

(1)要介護認定等に関する基本的な考え方

要介護認定等に関する手続きの一連の流れ、要介護認定等基準の基本的な考え方、要介護認定等基準時間の設定方法、一次判定の基本的考え方、二次判定の方法とその基本的考え方等について講義方式によって実施する。

(2)認定調査の実施方法

認定調査に関する総括的な留意事項及び調査方法、個別項目に関する定義、調査上の留意点及び選択肢の判断基準、認定調査票の記入方法等について講義方式によって実施する。

(3)事例検討

以下の事項等について検討会方式により実施する。

- ・調査結果を記載する際に判断に迷った場合の記載の仕方
- ・特記事項の適切、不適切な記載の仕方
- ・同一の高齢者について複数の認定調査員が実施した調査結果の比較

## 2. 3つの評価軸について

### (1) 能力の項目

#### ①基本的な考え方

- 能力の項目の特徴は大きく2つに分かれている。1つは身体的能力、もう1つは認知の能力である。調査項目としては主に1群と3群の調査項目にあり、選択肢に「できる」「できない」という表現が含まれていれば基本的には能力の項目である（ただし「視力」と「聴力」は例外である）。

#### 【身体的能力に関する項目】（10項目）

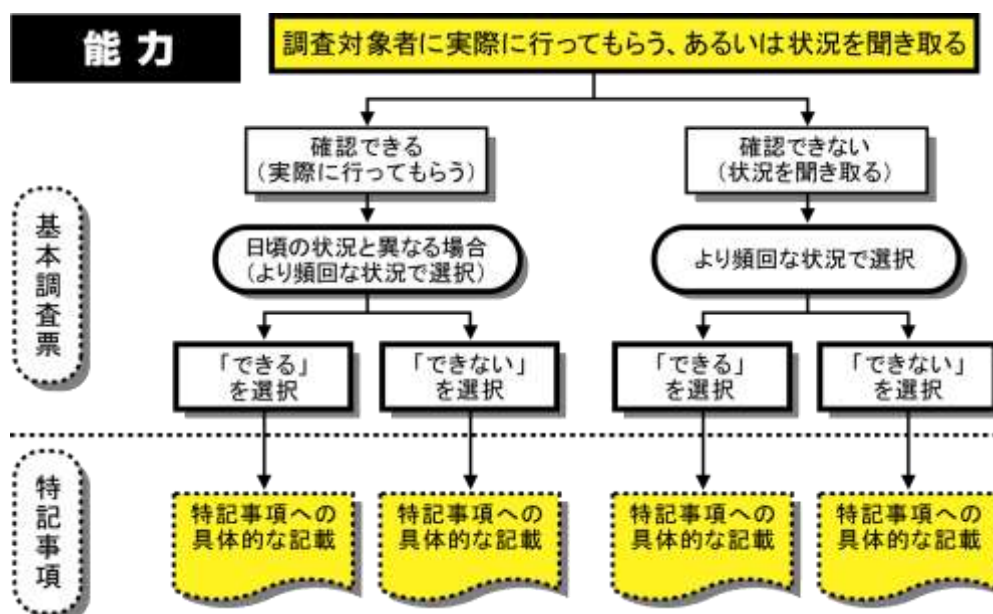
1-3 寝返り    1-4 起き上がり    1-5 座位保持    1-6 両足での立位保持  
1-7 歩行    1-8 立ち上がり    1-9 片足での立位  
1-12 視力    1-13 聴力    2-3 えん下

#### 【認知の能力に関する項目】（8項目）

3-1 意思の伝達    3-2 毎日の日課を理解    3-3 生年月日をいう  
3-4 短期記憶    3-5 自分の名前をいう    3-6 今の季節を理解  
3-7 場所の理解    5-3 日常の意思決定

下記は「有無」の項目に属するが、調査方法は「能力」の項目と同様である  
1-1 麻痺    1-2 拘縮

- 調査においては「試行」を前提としている（ただし、えん下など一部に例外あり）。「試行」してもらった上で、日頃の状況を聞き取り、それらの情報に基づいて選択することとなる。





## ②留意事項

- 選択の基本は「試行」であることから、安全確保を第一とし、可能な限り「認定調査員テキスト 2009改訂版」に示されている環境や方法で試行することが必要である。例えば、「【歩行】を足場の悪い場所で試行していないか」、「【寝返り】を、つかむものがない場所で試行していないか」、「【立ち上がり】を下肢が完全に机の下に入っている状態で試行していないか」等が確認のポイントとなる。なお、選択の判断に迷う場合は、特記事項に記載することが必要である。
- なお、特記事項のポイントは「日頃の状況」の聞き取りである。その際、日頃の状況とは日頃の「確認動作」の可否であることに留意する必要がある。

## (2) 介助の方法の項目

### ①基本的な考え方

- 「第2群」「第5群」を中心に、生活上の具体的な行為について、「実際に行われている介助」、または「適切な介助」を評価するものである。「介助されていない（必要ない）」「介助がされている（必要である）」の軸で評価するものであり、選択肢に「介助」という表現が含まれていれば介助の方法の項目である。

#### 【第1群】

1-10 洗身      1-11 つめ切り

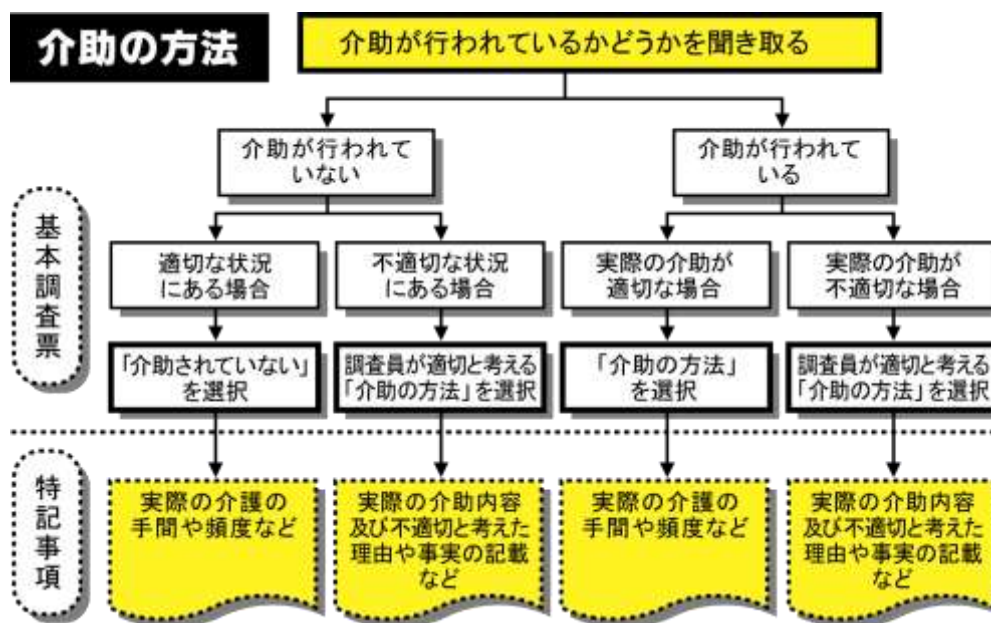
#### 【第2群】

2-1 移乗            2-2 移動      2-4 食事摂取      2-5 排尿      2-6 排便  
2-7 口腔清潔      2-8 洗顔      2-9 整髪            2-10 上衣の着脱  
2-11 ズボン等の着脱

#### 【第5群】

5-1 薬の内服      5-2 金銭の管理      5-5 買い物      5-6 簡単な調理

- 介助の方法の項目は、最初に実際の介助の状態を聞き取ることとなる。ただし、介護者がいないケースや日中独居というケースもあり、介護者の有無が介護状況に影響している場合もあるので、そのような場合には基本的に実際の介助の状況、より頻回な状況（生活の中で実際に介助されているのはどちらが多いか）で選択することとなる。



## ②留意事項

- 前述の通り、介助の方法の項目では「より頻回な状況で選択する」ことが大切である。さらに要介護者の介護状況は多様であるため、日常生活における場面毎の介助の状況の特記事項に記述することも重要である（頻回な状態で選択した場合は、必ず、「一次判定で評価しきれない介助」が存在することになるため）。
- また「実際の介助の方法」が不適切な場合もある。例えば「独居や日中独居等による介護者不在のために適切な介助が提供されていない場合」、「介護放棄、介護抵抗のために適切な介助が提供されていない場合」、「介護者の心身の状態から介助が提供できない場合」、「介護者による介助が、むしろ本人の自立を阻害しているような場合」等が考えられる。そのような場合は、介助の適正性を総合的に判断する、そして「不適切」とした場合はその理由を特記事項に記載する等が必要となる。

### (3) 有無の項目

#### ① 基本的な考え方

- 有無の項目は「麻痺・拘縮」と「BPSD関連」の2種類に分類される。B P S Dの有無18項目のうち大半は4群にあり、選択肢に「ある」「ない」という表現が含まれていれば基本的には有無の項目である（ただし「外出の頻度」は例外である）。3群の認知機能との違いは、試行できるものか否かである。

#### 【第1群】

1-1 麻痺      1-2 拘縮

#### 【第2群】

2-12 外出頻度

#### 【第3群】

3-8 徘徊      3-9 外出して戻れない

#### 【第4群】

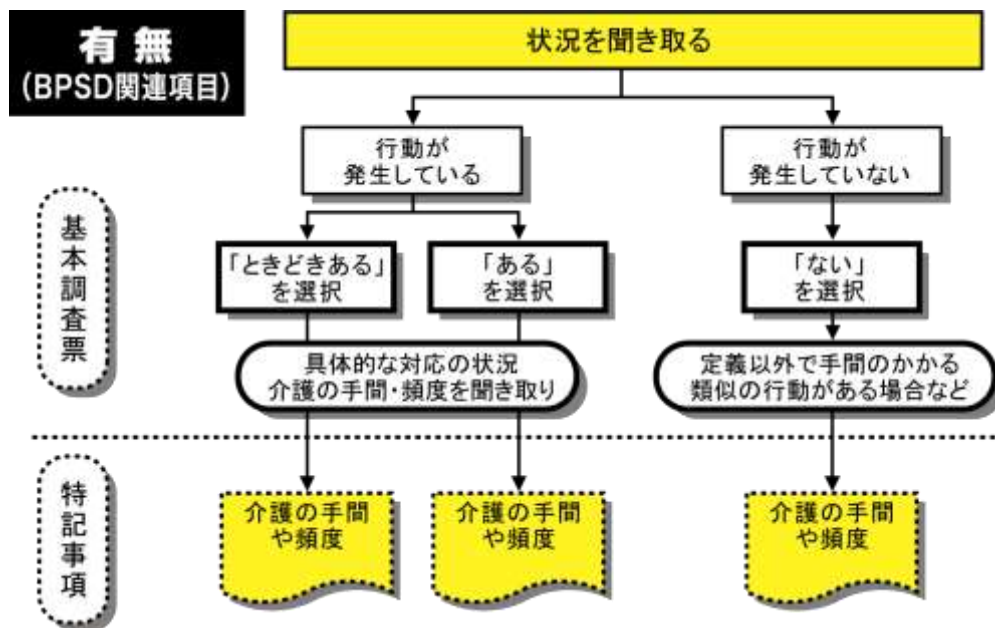
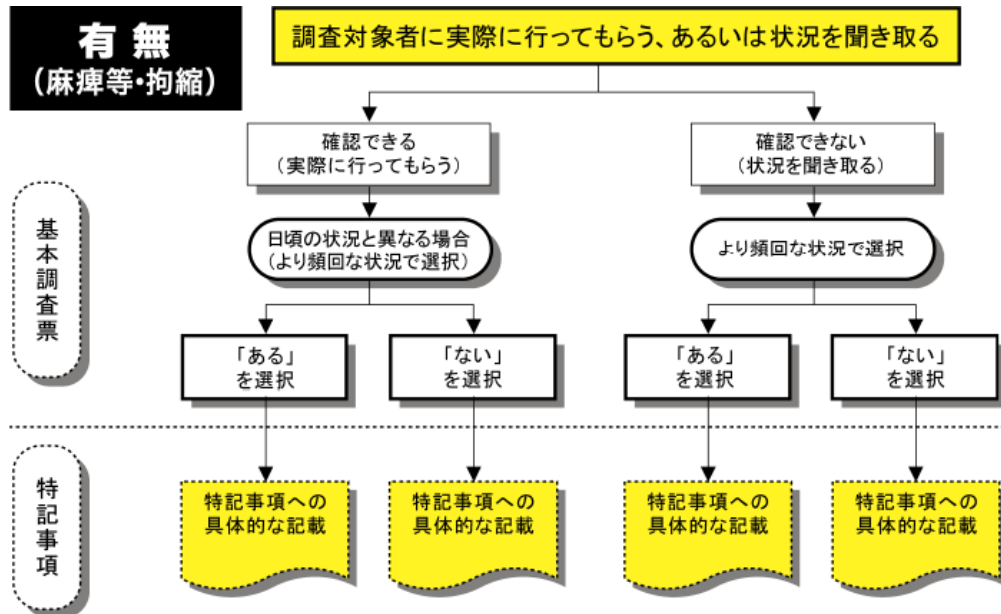
4-1 被害的                      4-2 作話      4-3 感情が不安定                      4-4 昼夜逆転  
4-5 同じ話をする              4-6 大声を出す                      4-7 介護に抵抗  
4-8 落ち着きなし              4-9 一人で出たがる              4-10 収集癖  
4-11 物や衣類を壊す              4-12 ひどい物忘れ              4-13 独り言・独り笑い  
4-14 自分勝手に行動する              4-15 話がまとまらない

#### 【第5群】

5-4 集団への不適応

#### 【特別な医療】

- 有無の項目のうち、麻痺等と拘縮は能力の項目と判断基準が同じであるが、B P S D 関連の項目については、介護の手間があるかどうか、日常生活上の支障があるかどうか、ではなく、定義された行動が発生しているかどうかで評価をする。



## ②留意事項

- 有無の項目のうち、B P S D 関連の項目について注意すべき点は、「選択基準」と「特記事項」の視点は異なるということである。選択基準はあくまでも定義にされた行動の有無とその頻度（ある・ときどきある）が基本となるが、特記事項には介護の手間の具体的な内容とその頻度を記載する必要がある。この特記事項が、審査会における委員のイメージの共通化には必要となる。
- また B P S D 関連の項目については、判断が難しいケースも少なくない。例えば「幻視・幻聴」と「作話」の違いや、認知症か他の精神疾患によるものかの判断は難しい。最終的には「介護の手間」が重要であることから、特記事項の記載が重要となる。
- さらに、「同じ作り話を大声でずっと繰り返す」といったケース等、申請者に観察された特定の行動が複数の調査項目に該当することもあるが、このように複数に該当するすべての項目を選択することとなる。

## 第3章 認定調査員の理解度

### 1. e-ラーニングシステムの概要

- 厚生労働省が実施している「要介護認定適正化事業」において、認定調査員向けのe-ラーニングが運用されている。これは平成22年度より運用されているシステムで、認定調査員一人ひとりが、時間や場所を任意に選択して全国共通の標準化された教材等を利用して、要介護認定調査に関する学習ができるものである。
- 認定調査員は、自治体から通知されたアカウントを利用し、本システムにログインすることで、自由にe-ラーニングを進めることができるようになる。すべての受講者は本システムを利用する上で最初に全国テストを受講する必要がある。「全国テスト」受講後は、「教材」「問題集」を必要性や関心をふまえて学習することができる。教材や問題集は分野ごとに分割されているほか、初学者問題、弱点問題、重点問題など、各自の課題に即した学習ができる機能を設けている。

全国テスト	認定調査員の認定調査に関する基礎的な理解を確認するために、全国共通の設問（30問）による全国テストを実施している。教材、問題集を受講するためには全国テストを必ず、受講する必要がある。
教材	認定調査の基礎的な考え方を学習できるように、6教材を配信している。
問題集	調査能力の底上げを図るために、160問（4分野で各40問）の問題集として配信している。

### 2. 「全国テスト」の結果概要

- 前述の通り、e-ラーニングシステムにおいては、認定調査員テキスト・介護認定審査会委員テキストなどをもとに、基礎的な認定調査に関する理解を確認するための「全国テスト」が実施されている。この「全国テスト」は30問あり、「基本的な考え方」に関する設問、「能力」の項目に関する設問、「介助の方法」に関する設問、「有無」の項目に関する設問がバランスよく設定されている。
- ここでは、「令和元年度 要介護認定適正化事業報告書」に掲載されている、e-ラーニングシステムにおける「全国テスト10」（令和元年度に実施されたテスト）の結果について概観していく。

## (1) 全体の正答率

- 「全国テスト10」全体の正答率は71.2%であった。分野別の正答率は、大きな違いはみられなかった。

	全体	基本的な考え方	能力	介助の方法	有無
全国テスト 10	71.2%	72.4%	71.0%	72.2%	68.8%
(参考) 全国テスト 9	73.5%	75.0%	76.8%	74.4%	67.3%

- また全体の正答率の分布をみると、「60%未満」が27.2%で最も多く、次いで「90%以上」が23.3%であり、受講者により理解度の違いがみられた。

	90%以上	80%台	70%台	60%台	60%未満
全国テスト 10	23.3%	17.5%	16.0%	16.0%	27.2%
(参考) 全国テスト 9	21.6%	19.8%	21.3%	17.7%	19.6%

- さらに正答率が70%を下回った設問をみると、正答率が70%以下の設問は14問で、分野別でみると、「基本的な考え方」が3問、「能力」が4問、「介助の方法」が2問、「有無」が5問であった。

問題文	正答率
【1-1 麻痺等の有無】右下肢が欠損して確認動作が行えない場合、基本調査ではどれを選択しますか。	56.8%
【有無（過去 14 日間にうけた特別な医療）】特別な医療について、正しいのはどれですか。	57.2%
【2-1 移乗】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。本人に移乗の身体能力があるにも関わらず、介助が行われている場合は、「常に」不適切な状況と判断して適切な介助の方法を選択する。	61.1%
【有無（BPSD 関連）】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。BPSD 関連の基本調査項目の選択肢の選択では、行動が発生しているかどうかで選択し、介護の手間が発生しているかどうかでは選択しない。	61.2%
【1-4 起き上がり】福祉用具（補装具や介護用品等）や器具類を使用している場合の評価について、誤っているものはどれですか。	61.6%
【1-6 両足での立位保持】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。調査時には、平らな床の上で立位を 10 秒間程度何にもつかまらないで保持できたが、家族の話では、日頃ではできないことが多い。	61.7%
【4-12 ひどい物忘れ】「ひどい物忘れ」の基本調査の選択基準について、誤っているのはどれですか。	61.9%
【1-7 歩行】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。訪問時の玄関までの出迎えにより、歩行動作が確認できたため、試行は行わなかった。	63.4%

問題文	正答率
【1-10 洗身】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。自分で洗身を行っているが、介護者による見守りが行われている。（ただし、不適切な状況にはないものとします。）	63.4%
【2-12 外出頻度】外出頻度の基本調査項目の選択で、評価するものはどれですか。	63.7%
【要介護認定の基本設計】一次判定の確定（基本調査項目の選択の確定等）は、誰またはどの機関の役割ですか。	65.5%
【4-9 一人で出たがる】下肢筋力の低下が進んで歩行できない場合の選択について、正しいものはどれですか。	66.7%
【過去 14 日間にうけた特別な医療（レスピレーター（人工呼吸器））「レスピレーター（人工呼吸器）の有無」の評価について、正しいものはどれですか。	67.2%
【5-3 日常の意思決定】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。日常生活状況のもとでも、意思決定がほとんどできないが、見たいテレビ番組やその日の献立に関する意思決定をすることがある。	67.8%

## （2）回答者の属性別の正答率

- 「全国テスト10」の結果を個人の属性別で見ると、性別では「女性」の方が正答率が高く、年齢別では大きな違いがみられなかった。所属別では「市町村・広域連合」「事務受託法人」の正答率が高く、「居宅介護支援事業者」「地域包括支援センター」「介護保険施設」の正答率は低かった。基礎資格別では、「ホームヘルパー」「保健師」「看護師・准看護師」の正答率がやや高いが、大きな違いはみられなかった。また、認定調査の経験年数が少ない人や、1か月あたりの平均調査件数が少ない人、認定調査員テキストを「読んでいない」人の正答率が低かった。

		全体	基本的な考え方	能力	介助の方法	有無
全体		71.2%	72.4%	71.0%	72.2%	68.8%
性別	男性	62.6%	63.6%	63.0%	65.4%	58.2%
	女性	72.7%	74.0%	72.4%	73.4%	70.7%
年齢	20 歳代	71.6%	75.4%	69.8%	73.0%	67.1%
	30 歳代	69.7%	69.0%	70.2%	72.7%	67.0%
	40 歳代	69.2%	70.2%	69.2%	70.3%	66.9%
	50 歳代	72.6%	74.2%	72.0%	73.3%	70.6%
	60 歳以上	72.4%	74.2%	72.3%	72.7%	69.8%
所属	市町村・広域連合	79.0%	80.2%	78.1%	79.1%	78.1%
	事務受託法人	77.7%	78.9%	75.6%	78.0%	77.9%
	居宅介護支援事業者	61.3%	62.4%	62.4%	63.2%	56.7%
	地域包括支援センター	57.8%	56.9%	58.5%	61.7%	54.0%
	介護保険施設	58.6%	61.1%	59.0%	61.8%	52.0%
	その他	75.7%	78.5%	73.7%	75.8%	73.7%



		全体	基本的な 考え方	能力	介助の 方法	有無
主たる基礎資格	介護支援専門員	69.6%	70.8%	69.8%	70.8%	66.9%
	介護福祉士	71.6%	72.6%	71.3%	72.8%	69.2%
	ホームヘルパー	79.1%	80.5%	78.6%	80.3%	76.8%
	保健師	75.7%	78.7%	74.7%	75.1%	73.6%
	看護師・准看護師	78.1%	79.2%	76.7%	77.6%	78.6%
	社会福祉士	70.8%	71.7%	69.8%	74.0%	67.5%
	その他	71.8%	72.2%	71.3%	73.4%	70.2%
	特になし	71.4%	74.2%	70.5%	72.2%	68.2%
経験年数	経験無し	67.2%	71.9%	64.8%	67.8%	62.9%
	1年未満	63.2%	62.7%	62.2%	67.1%	60.8%
	1年以上2年未満	66.6%	67.2%	67.2%	68.1%	63.9%
	2年以上4年未満	68.6%	68.3%	70.2%	69.6%	66.4%
	4年以上6年未満	71.0%	71.4%	71.4%	71.9%	68.9%
	6年以上8年未満	73.4%	73.9%	73.4%	74.5%	71.6%
	8年以上	75.9%	78.4%	75.0%	76.0%	73.6%
月間平均調査件数	0～1件	64.8%	67.5%	64.1%	66.4%	60.5%
	2～5件	64.0%	65.1%	64.6%	65.9%	59.9%
	6～10件	69.1%	69.7%	69.6%	69.7%	67.2%
	11～20件	77.5%	78.1%	77.6%	77.8%	76.4%
	21～30件	78.9%	80.4%	78.3%	79.3%	77.2%
	31件以上	80.0%	80.5%	79.0%	80.0%	80.3%
テキスト調査員	よく読んだ	78.7%	80.2%	77.9%	79.4%	76.8%
	おおよそ読んだ	68.3%	69.2%	68.6%	69.4%	65.8%
	読んでいない	57.1%	60.4%	55.2%	58.5%	53.2%

- また「経験年数」「月間平均調査件数」「調査員テキスト（を読んでいるか）」別に得点分布をみると、「経験年数」が長い人の方が、「月間平均調査件数」が多い人の方が、「調査員テキスト（を読んでいるか）」をよく読んでいる人の方が正答率が高かった。

		90%以上	80%台	70%台	60%台	60%未満
全体		23.3%	17.5%	16.0%	16.0%	27.2%
経験年数	経験無し	15.6%	15.6%	15.6%	20.8%	32.5%
	1年未満	9.9%	12.9%	16.5%	18.9%	41.8%
	1年以上2年未満	13.0%	16.9%	16.7%	17.9%	35.5%
	2年以上4年未満	18.1%	16.1%	16.6%	17.3%	31.9%
	4年以上6年未満	23.5%	17.6%	15.9%	15.0%	27.9%
	6年以上8年未満	26.9%	19.6%	15.9%	15.8%	21.8%
	8年以上	32.3%	19.3%	15.5%	13.7%	19.3%
月間平均調査件数	0～1件	14.5%	13.0%	15.5%	17.2%	39.8%
	2～5件	10.9%	13.7%	15.7%	19.2%	40.5%
	6～10件	20.4%	15.3%	14.3%	20.1%	29.9%
	11～20件	33.0%	19.9%	18.4%	13.9%	14.8%
	21～30件	34.7%	22.0%	17.4%	13.7%	12.1%
	31件以上	37.7%	23.3%	15.7%	12.0%	11.3%
調査員 テキスト	よく読んだ	36.6%	21.1%	15.2%	12.5%	14.7%
	おおよそ読んだ	17.4%	16.6%	16.7%	17.8%	31.6%
	読んでいない	6.1%	5.8%	13.5%	18.0%	56.5%

### （3）経験年数別の正答率

- 次の表は、経験年数別に「全国テスト10」の個別の設問の正答率と、正答率の平均との乖離を示したものである。

経験年数別の正答率①	合計	認定調査の経験年数							
		経験無し	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 4年未満	4年以上 6年未満	6年以上 8年未満	8年以上	無回答
設問	6542	418	677	563	954	941	715	2274	0
【要介護認定の基本設計】一次判定の確定（基本調査項目の選択の確定等）は、誰またはどの機関の役割ですか。	4283	294	375	330	588	592	493	1611	0
	65.5	70.3	55.4	58.6	61.6	62.9	69.0	70.8	0.0
【要介護認定の基本設計】各基本調査項目の定義にうまく当てはまらないなど判断に迷う際の基本調査の選択としてもっとも適切なのはどれですか。	5271	350	507	428	746	745	581	1914	0
	80.6	83.7	74.9	76.0	78.2	79.2	81.3	84.2	0.0
【要介護認定の基本設計】認定調査票の特記事項は、どのような時に利用されますか。	4587	315	417	371	626	638	514	1706	0
	70.1	75.4	61.6	65.9	65.6	67.8	71.9	75.0	0.0
【能力】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。能力で評価する基本調査項目は、日常生活上の支障があるかどうかで選択する。	5732	358	534	474	804	825	639	2098	0
	87.6	85.6	78.9	84.2	84.3	87.7	89.4	92.3	0.0
【介助の方法】（ ）に当てはまる言葉を選んでください。介助されていない状態や実際に行われている介助が、対象者にとって不適切であるとの判断を一次判定で修正・確定するのは、（ ）の役割である。	4677	314	390	376	624	656	536	1781	0
	71.5	75.1	57.6	66.8	65.4	69.7	75.0	78.3	0.0
【有無（BPSD関連）】（ ）に当てはまる言葉を選んでください。BPSD関連の基本調査項目では、（ ）が発生しているかどうかで選択する。	4640	277	373	350	620	679	526	1815	0
	70.9	66.3	55.1	62.2	65.0	72.2	73.6	79.8	0.0
【有無（BPSD関連）】BPSD関連項目の基本調査では、概ねどの程度の期間の状況を調査対象としますか。	5714	316	556	492	821	830	630	2069	0
	87.3	75.6	82.1	87.4	86.1	88.2	88.1	91.0	0.0
【有無（BPSD関連）】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。BPSD関連の基本調査項目の選択肢の選択では、行動が発生しているかどうかで選択し、介護の手間が発生しているかどうかでは選択しない。	4002	265	327	295	523	564	432	1596	0
	61.2	63.4	48.3	52.4	54.8	59.9	60.4	70.2	0.0
【有無（過去14日間にうけた特別な医療）】特別な医療について、正しいのはどれですか。	3745	217	343	291	509	522	407	1456	0
	57.2	51.9	50.7	51.7	53.4	55.5	56.9	64.0	0.0
【1-4起き上がり】福祉用具（補装具や介護用品等）や器具類を使用している場合の評価について、誤っているものはどれですか。	4033	248	358	325	572	539	465	1526	0
	61.6	59.3	52.9	57.7	60.0	57.3	65.0	67.1	0.0
【1-6両足での立位保持】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。調査時には、平らな床の上で立位を10秒間程度何にもつかまらないで保持できたが、家族の話では、日頃はできないことが多い。	4039	267	352	331	586	585	449	1469	0
	61.7	63.9	52.0	58.8	61.4	62.2	62.8	64.6	0.0
【1-7歩行】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。両足を切断しており、立位がとれないが、屋内移動は両手で行うことができる。	5186	299	456	411	751	755	585	1929	0
	79.3	71.5	67.4	73.0	78.7	80.2	81.8	84.8	0.0
【1-7歩行】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。訪問時の玄関までの出迎えにより、歩行動作が確認できたため、試行は行わなかった。	4145	249	412	357	614	598	454	1461	0
	63.4	59.6	60.9	63.4	64.4	63.5	63.5	64.2	0.0
【2-3えん下】「見守り等」の選択基準として、正しいのはどれですか。	4638	256	393	356	649	685	530	1769	0
	70.9	61.2	58.1	63.2	68.0	72.8	74.1	77.8	0.0
【3-4短期記憶】面接調査の直前に何をしていたか思い出すことの確認が難しい場合に行う、「ペン」「時計」「視力確認表」を使った短期記憶の確認について、適切なものはどれですか。	6025	333	597	527	884	881	669	2134	0
	92.1	79.7	88.2	93.6	92.7	93.6	93.6	93.8	0.0

経験年数別の正答率②	合計	認定調査の経験年数							無回答
		経験無し	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 4年未満	4年以上 6年未満	6年以上 8年未満	8年以上	
【5-3日常の意思決定】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。日常生活状況のもとでも、意思決定がほとんどできないが、見たいテレビ番組やその日の献立に関する意思決定をすることがある。	4438 67.8	245 58.6	382 56.4	341 60.6	629 65.9	660 70.1	524 73.3	1657 72.9	0 0.0
【1-10洗身】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。自分で洗身を行っているが、介護者による見守りが行われている。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)	4149 63.4	247 59.1	388 57.3	310 55.1	565 59.2	574 61.0	467 65.3	1598 70.3	0 0.0
【2-1移乗】正しいければ○、誤っていれば×を選択してください。本人に移乗の身体能力があるにも関わらず、介助が行われている場合は、「常に」不適切な状況と判断して適切な介助の方法を選択する。	3999 61.1	241 57.7	346 51.1	324 57.5	575 60.3	593 63.0	461 64.5	1459 64.2	0 0.0
【2-2移動】「移動」について、正しいのはどれですか。	5218 79.8	297 71.1	503 74.3	433 76.9	745 78.1	768 81.6	589 82.4	1883 82.8	0 0.0
【2-5排尿】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。トイレへの移動、トイレ内での行為には、見守りも介助も行われていないものの、認知症のためトイレに行くタイミングを自分で把握できないことがあるため、定時の声かけを行っている。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)	5231 80.0	309 73.9	516 76.2	410 72.8	732 76.7	753 80.0	595 83.2	1916 84.3	0 0.0
【2-7口腔清潔】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。介護者が磨き残しの確認のみを行っている。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)	4748 72.6	278 66.5	469 69.3	399 70.9	660 69.2	661 70.2	536 75.0	1745 76.7	0 0.0
【5-2金銭の管理】手元に現金等を所持していない場合の考え方について、正しいものはどれですか。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)	4849 74.1	295 70.6	494 73.0	411 73.0	698 73.2	705 74.9	535 74.8	1711 75.2	0 0.0
【5-6簡単な調理】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。「炊飯」「弁当、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めん調理」のうち、対象者に実際に発生している行為が「炊飯」のみであり、その行為すべてに介助が行われている。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)	4872 74.5	316 75.6	462 68.2	397 70.5	676 70.9	685 72.8	544 76.1	1792 78.8	0 0.0
【1-1麻痺等の有無】右下肢が欠損して確認動作が行えない場合、基本調査ではどれを選択しますか。	3717 56.8	211 50.5	256 37.8	280 49.7	508 53.2	544 57.8	440 61.5	1478 65.0	0 0.0
【2-12外出頻度】外出頻度の基本調査項目の選択で、評価するものはどれですか。	4169 63.7	225 53.8	401 59.2	361 64.1	623 65.3	612 65.0	471 65.9	1476 64.9	0 0.0
【4-6大声を出す】「大声を出す」の特記事項の記載について、最も重要なものはどれですか。	5259 80.4	325 77.8	529 78.1	433 76.9	766 80.3	763 81.1	578 80.8	1865 82.0	0 0.0
【4-9一人で出たがる】下肢筋力の低下が進んで歩行できない場合の選択について、正しいものはどれですか。	4365 66.7	260 62.2	376 55.5	326 57.9	583 61.1	627 66.6	495 69.2	1698 74.7	0 0.0
【4-12ひどい物忘れ】「ひどい物忘れ」の基本調査の選択基準について、誤っているのはどれですか。	4048 61.9	230 55.0	348 51.4	305 54.2	547 57.3	566 60.1	477 66.7	1575 69.3	0 0.0
【過去14日間にうけた特別な医療（レスピレーター（人工呼吸器））「レスピレーター（人工呼吸器）の有無」の評価について、正しいものはどれですか。	4396 67.2	254 60.8	424 62.6	353 62.7	605 63.4	623 66.2	497 69.5	1640 72.1	0 0.0
【過去14日間にうけた特別な医療（モニター測定）】（ ）に当てはまる言葉を選んでください。血圧、心拍、心電図、呼吸数、酸素飽和度の（ ）について、24時間にわたってモニターを身につけた状態で継続的に測定されているかを評価する。	5562 85.0	334 79.9	548 80.9	459 81.5	805 84.4	806 85.7	624 87.3	1986 87.3	0 0.0

経験年数別の全体正答率との差①	合計	認定調査の経験年数							無回答
		経験無し	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 4年未満	4年以上 6年未満	6年以上 8年未満	8年以上	
【要介護認定の基本設計】一次判定の確定（基本調査項目の選択の確定等）は、誰またはどの機関の役割ですか。	4283 65.5	4.9	-10.1	-6.9	-3.8	-2.6	3.5	5.4	0.0
【要介護認定の基本設計】各基本調査項目の定義にうまく当てはまらないなど判断に迷う際の基本調査の選択としてもっとも適切なのはどれですか。	5271 80.6	3.2	-5.7	-4.6	-2.4	-1.4	0.7	3.6	0.0
【要介護認定の基本設計】認定調査票の特記事項は、どのような時に利用されますか。	4587 70.1	5.2	-8.5	-4.2	-4.5	-2.3	1.8	4.9	0.0
【能力】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。能力で評価する基本調査項目は、日常生活上の支障があるかどうかで選択する。	5732 87.6	-2.0	-8.7	-3.4	-3.3	0.1	1.8	4.6	0.0
【介助の方法】（ ）に当てはまる言葉を選んでください。介助されていない状態や実際に行われている介助が、対象者にとって不適切であるとの判断を一次判定で修正・確定するのは、（ ）の役割である。	4677 71.5	3.6	-13.9	-4.7	-6.1	-1.8	3.5	6.8	0.0
【有無（BPSD関連）】（ ）に当てはまる言葉を選んでください。BPSD関連の基本調査項目では、（ ）が発生しているかどうかで選択する。	4640 70.9	-4.7	-15.8	-8.8	-5.9	1.2	2.6	8.9	0.0
【有無（BPSD関連）】BPSD関連項目の基本調査では、概ねどの程度の期間の状況を調査対象としますか。	5714 87.3	-11.7	-5.2	0.0	-1.3	0.9	0.8	3.6	0.0
【有無（BPSD関連）】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。BPSD関連の基本調査項目の選択肢の選択では、行動が発生しているかどうかで選択し、介護の手間が発生しているかどうかでは選択しない。	4002 61.2	2.2	-12.9	-8.8	-6.4	-1.2	-0.8	9.0	0.0
【有無（過去14日間にうけた特別な医療）】特別な医療について、正しいのはどれですか。	3745 57.2	-5.3	-6.6	-5.6	-3.9	-1.8	-0.3	6.8	0.0
【1-4起き上がり】福祉用具（補装具や介護用品等）や器具類を使用している場合の評価について、誤っているものはどれですか。	4033 61.6	-2.3	-8.8	-3.9	-1.7	-4.4	3.4	5.5	0.0
【1-6両足での立位保持】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。調査時には、平らな床の上で立位を10秒間程度何にもつかまらないで保持できたが、家族の話では、日頃はできないことが多い。	4039 61.7	2.1	-9.7	-2.9	-0.3	0.4	1.1	2.9	0.0
【1-7歩行】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。両足を切断しており、立位がとれないが、屋内移動は両手で行うことができる。	5186 79.3	-7.7	-11.9	-6.3	-0.6	1.0	2.5	5.6	0.0
【1-7歩行】正しければ○、誤っていれば×を選択してください。訪問時の玄関までの出迎えにより、歩行動作が確認できたため、試行は行わなかった。	4145 63.4	-3.8	-2.5	0.1	1.0	0.2	0.1	0.9	0.0
【2-3えん下】「見守り等」の選択基準として、正しいのはどれですか。	4638 70.9	-9.7	-12.8	-7.7	-2.9	1.9	3.2	6.9	0.0
【3-4短期記憶】面接調査の直前に何をしていたか思い出すことの確認が難しい場合に行う、「ペン」「時計」「視力確認表」を使った短期記憶の確認について、適切なものはどれですか。	6025 92.1	-12.4	-3.9	1.5	0.6	1.5	1.5	1.7	0.0

経験年数別の全体正答率との差②	合計	認定調査の経験年数							無回答
		経験無し	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 4年未満	4年以上 6年未満	6年以上 8年未満	8年以上	
【5-3日常の意思決定】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。日常生活状況のもとでも、意思決定がほとんどできないが、見たいテレビ番組やその日の献立に関する意思決定をすることがある。	4438 67.8	-9.2	-11.4	-7.3	-1.9	2.3	5.4	5.0	0.0
【1-10洗身】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。自分で洗身を行っているが、介護者による見守りが行われている。（ただし、不適切な状況にはないものとします。）	4149 63.4	-4.3	-6.1	-8.4	-4.2	-2.4	1.9	6.9	0.0
【2-1移乗】正しいければ○、誤っていれば×を選択してください。本人に移乗の身体能力があるにも関わらず、介助が行われている場合は、「常に」不適切な状況と判断して適切な介助の方法を選択する。	3999 61.1	-3.5	-10.0	-3.6	-0.9	1.9	3.3	3.0	0.0
【2-2移動】「移動」について、正しいのはどれですか。	5218 79.8	-8.7	-5.5	-2.9	-1.7	1.9	2.6	3.0	0.0
【2-5排尿】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。トイレへの移動、トイレ内での行為には、見守りも介助も行われていないものの、認知症のためトイレに行くタイミングを自分で把握できないことがあるため、定時の声かけを行っている。（ただし、不適切な状況にはないものとします。）	5231 80.0	-6.0	-3.7	-7.1	-3.2	0.1	3.3	4.3	0.0
【2-7口腔清潔】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。介護者が磨き残しの確認のみを行っている。（ただし、不適切な状況にはないものとします。）	4748 72.6	-6.1	-3.3	-1.7	-3.4	-2.3	2.4	4.2	0.0
【5-2金銭の管理】手元に現金等を所持していない場合の考え方について、正しいのはどれですか。（ただし、不適切な状況にはないものとします。）	4849 74.1	-3.5	-1.2	-1.1	-1.0	0.8	0.7	1.1	0.0
【5-6簡単な調理】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。「炊飯」「弁当、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めん調理」のうち、対象者に実際に発生している行為が「炊飯」のみであり、その行為すべてに介助が行われている。（ただし、不適切な状況にはないものとします。）	4872 74.5	1.1	-6.2	-4.0	-3.6	-1.7	1.6	4.3	0.0
【1-1麻痺等の有無】右下肢が欠損して確認動作が行えない場合、基本調査ではどれを選択しますか。	3717 56.8	-6.3	-19.0	-7.1	-3.6	1.0	4.7	8.2	0.0
【2-12外出頻度】外出頻度の基本調査項目の選択で、評価するものはどれですか。	4169 63.7	-9.9	-4.5	0.4	1.6	1.3	2.1	1.2	0.0
【4-6大声を出す】「大声を出す」の特記事項の記載について、最も重要なものはどれですか。	5259 80.4	-2.6	-2.2	-3.5	-0.1	0.7	0.5	1.6	0.0
【4-9一人で出たがる】下肢筋力の低下が進んで歩行できない場合の選択について、正しいのはどれですか。	4365 66.7	-4.5	-11.2	-8.8	-5.6	-0.1	2.5	7.9	0.0
【4-12ひどい物忘れ】「ひどい物忘れ」の基本調査の選択基準について、誤っているのはどれですか。	4048 61.9	-6.9	-10.5	-7.7	-4.5	-1.7	4.8	7.4	0.0
【過去14日間にうけた特別な医療（レスピレーター（人工呼吸器））】「レスピレーター（人工呼吸器）の有無」の評価について、正しいのはどれですか。	4396 67.2	-6.4	-4.6	-4.5	-3.8	-1.0	2.3	4.9	0.0
【過去14日間にうけた特別な医療（モニター測定）】（ ）に当てはまる言葉を選んでください。血圧、心拍、心電図、呼吸数、酸素飽和度の（ ）について、24時間にわたってモニターを身につけた状態で継続的に測定されているかを評価する。	5562 85.0	-5.1	-4.1	-3.5	-0.6	0.6	2.3	2.3	0.0

## 第4章 認定調査員 初任者研修ツール

---

- 次頁以降は、認定調査員の初任者が認定調査を行う際に、より迷いを少なく調査を実施し、審査会委員に伝わる特記事項を記入できるよう、調査のポイントについて初任者向けの研修ツールとして作成したものである。

介護保険 要介護認定

# 認定調査員 初任者研修ツール

---

2021  
|  
2023



## 目次

本研修ツールの目的	1
平準化チェックシートの読み方 「1-10洗身」「2-12外出頻度」を例として	2
介護保険制度の理解	4
介護サービスの利用の手続き、介護サービスの種類	5
審査判定の手順	6
3つの評価軸	7
1群	9
2群	19
3群	27
4群	28
5群	31
その他の医療	34
厚生労働省 認定調査員能力向上研修会 事例※	35

※ 適宜事例を確認しながら、各項目の調査ポイントを読み進めてください。

### ● 引用文献、参考文献

- 要介護認定「認定調査員テキスト2009改訂版」(厚生労働省)
- 要介護認定「介護認定審査会委員テキスト2009改訂版」(厚生労働省)
- 厚生労働省 要介護認定適正化事業「認定調査員能力向上研修会」研修テキスト
- 要介護認定調査平準化チェックシート  
2020年7月版Ver.11.0(SEO財団 福祉サービス評価機構)
- 認定調査員項目理解度テスト結果報告書2020年度(SEO財団 福祉サービス評価機構)

本研修ツールは、令和2年度厚生労働省 老人保健事業推進費等補助金を受けて「認定調査員初任者の指導方法等に係る調査研究事業」において作成した。

事業実施主体 みずほ情報総研株式会社

制作・編集 SEO 財団 福祉サービス評価機構

編集責任者 SEO 財団 保健福祉部門統括理事 奥住浩代

※本研修ツールの著作権<sup>©</sup>は、SEO 財団 福祉サービス評価機構に帰属する。

## 認定調査員 初任者研修ツール

---

### ◆ 本研修ツールの目的

介護保険制度の根幹である要介護認定、その認定のもととなる認定調査について、調査員は申請者の状況を極力正確に介護認定審査会委員に伝達すべく、調査票をまとめることが必要である。

そこで今回、初任者が認定調査をする際、より迷いを少なく調査し、審査会委員の方々に伝わる特記事項を記入できるように、調査のポイントについて初任者向けの研修ツールとして作成したものである。

この研修ツールを活用頂き、認定調査のバラツキを無くし、適正な一次判定結果となるようにすることを期待する。

また、令和2年4月より指定市町村事務受託法人においては介護支援専門員以外の保健、医療又は福祉に関する専門知識を有する者について、一定の条件のもと調査員として従事することができる（令和2年2月3日事務連絡 厚労省老健局老人保健課）ことから、介護保険制度を踏まえた上で認定調査業務を理解する必要から、本研修ツールにおいて介護保険制度についても一部触れることとした。

要介護認定「認定調査員テキスト2009改訂版」（厚生労働省）と併せ、本研修ツールを活用し、正しい基礎知識を身につけ、中立公正、適切な認定調査業務に活用して頂きたい。

## 平準化チェックシートの読み方

### 「介助の方法」1-10 洗身

**1-10 お風呂場で身体を洗う時、どなたかにお手伝いしてもらっていますか？**  
 ※自宅・通所先・訪問入浴・福祉浴・シャワー浴・清拭 ※入浴回数（ 回 / 週）  
 ※洗髪、洗顔、入浴行為は含まない ※介助が不適切な場合、適切な介助の方法を選択する

<b>洗身</b>	<b>1. 介助されていない</b> <small>（介助拒否のため、適切な介助が提供されていない場合「適切な介助」を選択）</small>	①自分で洗うが、時間がかかる ②洗いやすい洗身ブラシ等の自給具を使用する
<b>介助</b>	<b>2. 一部介助（見守り等）</b> <small>（右側等を付ける行為への介助ではない。身体の両側を洗う行為について評価）</small>	①（ ）のため、_____が身体の一部（背中・足・ ）を洗う・洗身し直す ②自分で洗うが、（ ）のため、_____が見守りをしている ③施設等で介護者がいない。自分で洗っているが（ ）のため、（背中・足）等は洗えていない。（汗疹・痛み・ ）があり、一部介助が必要と考え「2.一部介助」を選択する
浴室内で、スポンジや手拭い等に石鹸等を付けて全身を洗うことだが、石鹸等が付いていなくても、あくまでも体を洗う行為そのものについて介助が行われているかどうかで選択を行う	<b>3. 全介助</b>	①（ ）のため、_____がすべて洗っている。自分で洗うことができない ②自分で洗えないので、_____がすべてを洗身し直す
	<b>4. 行っていない</b>	①日常的に洗身を行っていない ②（ ）のため、（自分で、 ）が清拭をしている

◆肩痛・肘痛・手指の痛み(変形)・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・視力・聴覚・理解・不十分・業務の都合・倦怠感

**定義の留意点** (洗身欄参照)

**質問のサンプル** (洗身欄参照)

**留意点** (洗身欄参照)

**介助理由のサンプル** (洗身欄参照)

### 調査時の聞き取りメモ

**1-10 お風呂場で身体を洗う時、どなたかにお手伝いしてもらっていますか？**  
 ※自宅・通所先・訪問入浴・福祉浴・シャワー浴・清拭 ※入浴回数（2回 / 週）  
 ※洗髪、洗顔、入浴行為は含まない ※介助が不適切な場合、適切な介助の方法を選択する

<b>洗身</b>	<b>1. 介助されていない</b> <small>（介助拒否のため、適切な介助が提供されていない場合「適切な介助」を選択）</small>	①自分で洗うが、時間がかかる ②洗いやすい洗身ブラシ等の自給具を使用する
浴室内で、スポンジや手拭い等に石鹸等を付けて全身を洗うことだが、石鹸等が付いていなくても、あくまでも体を洗う行為そのものについて介助が行われているかどうかで選択を行う	<b>2. 一部介助（見守り等）</b> <small>（右側等を付ける行為への介助ではない。身体の両側を洗う行為について評価）</small>	①（ ）のため、_____が身体の一部（背中・足・ ）を洗う・洗身し直す ②自分で洗うが、（ ）のため、職員が見守りをしている ③施設等で介護者がいない。自分で洗っているが（ ）のため、（背中・足）等は洗えていない。（汗疹・痛み・ ）があり、一部介助が必要と考え「2.一部介助」を選択する
	<b>3. 全介助</b>	①（ ）のため、_____がすべて洗っている。自分で洗うことができない ②自分で洗えないので、_____がすべてを洗身し直す
	<b>4. 行っていない</b>	①日常的に洗身を行っていない ②（ ）のため、（自分で、 ）が清拭をしている

◆肩痛・肘痛・手指の痛み(変形)・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・視力・聴覚・理解・不十分・業務の都合・倦怠感

**聞き取りメモ** (洗身欄参照)

### 特記事項に記載すると

通所先で入浴(週2回)  
 肩痛があり、長いタオルを使っても背中が洗えず、職員が介助する。

## 「有無」 2-12 外出頻度

**定義留意点**

**2-12** 日頃、おおむね 30 分以上の外出をしていますか？（居住地の敷地外）  
調査日よりおおむね 1 ヶ月以内

**外出頻度** 有無

外出の目的や、同行者の有無、目的地等は問わない。自宅・施設の敷地外を指す。  
※徘徊や緊急搬送・同一施設・敷地内のデイサービス・診療所等は外出とは考えない  
※過去 1 ヶ月の間に状態が大きく変化した場合は、変化した後の状況で選択を行う

**質問のサンプル**

外出する場所は？（無・有）⇒

①病院（通院）	②店（買い物）	③散歩	④通所サービス	⑤	⑥
無・有 ( )	無・有 ( )	無・有 ( )	無・有 (職員)	無・有 ( )	無・有 ( )

同行者（介護者）は？

外出方法は？

外出頻度は？（過去 1 ヶ月以内）

( ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

**意識して質問する項目**

※フーリング

すべて合計すると… 過去 1 ヶ月 ( ) 回 / 週・月 ⇒ ※日頃も同じ、多い・少ない

**選択肢**

外出頻度は

1. 週 1 回以上	2. 月 1 回以上（1～3回）	3. 月 1 回未満
------------	------------------	------------

## 調査時の聞き取りメモ

**2-12** 日頃、おおむね 30 分以上の外出をしていますか？（居住地の敷地外）  
調査日よりおおむね 1 ヶ月以内

**外出頻度** 有無

外出の目的や、同行者の有無、目的地等は問わない。自宅・施設の敷地外を指す。  
※徘徊や緊急搬送・同一施設・敷地内のデイサービス・診療所等は外出とは考えない  
※過去 1 ヶ月の間に状態が大きく変化した場合は、変化した後の状況で選択を行う

**質問のサンプル**

外出する場所は？（無・有）⇒

①病院（通院）	②店（買い物）	③散歩	④通所サービス	⑤	⑥
無・有 (妻)	無・有 (妻)	無・有 ( )	無・有 (職員)	無・有 ( )	無・有 ( )

同行者（介護者）は？

外出方法は？

外出頻度は？（過去 1 ヶ月以内）

( 1 ) 回 / 週・月	( 2 ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月	( 1 ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月	( ) 回 / 週・月
------------------	------------------	----------------	------------------	----------------	----------------

**意識して質問する項目**

※フーリング

すべて合計すると… 過去 1 ヶ月 ( 4 ) 回 / 週・月 ⇒ ※日頃も同じ、多い・少ない

外出時は杖を使用。ふらつくため家族や職員が左腕を支える。

外出頻度は

1. 週 1 回以上	2. 月 1 回以上（1～3回）	3. 月 1 回未満
------------	------------------	------------

## 特記事項に記載すると

妻の運転で病院（1 回／週）、買い物（2 回／週）へ外出。  
職員の送迎でデイサービス（週 1 回）に通う。  
外出時は杖を使用。ふらつくため家族や職員が左腕を支える。



## 介護保険制度の理解

介護保険法では、まず第1条(目的)として、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等による要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的としている。

この第1条に「尊厳」「有する能力」「自立」「必要なサービス」として、認定調査を行うポイントが記載されている。

**また、介護保険法第7条第1項では要介護状態について**「要介護状態」とは、身体上又は精神上的の障害があるために、入浴、排せつ、食事等の日常生活における基本的な動作の全部又は一部について、厚生労働省令で定める期間にわたり継続して、常時介護を要すると見込まれる状態であって、その介護の必要の程度に応じて厚生労働省令で定める区分のいずれかに該当するものとしている。

介護保険法を第7条第1項の厚生労働省令で定める期間は、**介護保険法施行規則第2条 要介護状態の継続見込期間**において、6月間としている。

また、余命が6月に満たないと判断される場合にあっては、死亡までの間としている。

※要支援状態の期間も6月間(第3条)

まずは介護保険法の目的を確認します。

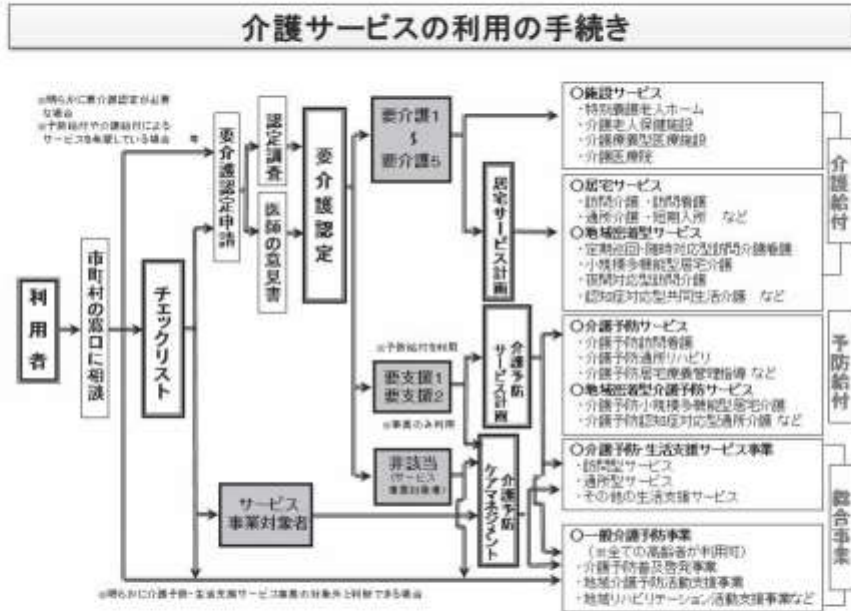
「尊厳」「有する能力」  
「自立」「必要なサービス」  
認定調査を行うポイントが記載されています。

「要介護状態」とは？

厚生労働省令で定める期間

## 介護サービスの利用の手続き、介護サービスの種類

介護保険における「介護サービスの利用の手続き」と「介護サービスの種類」を確認します。



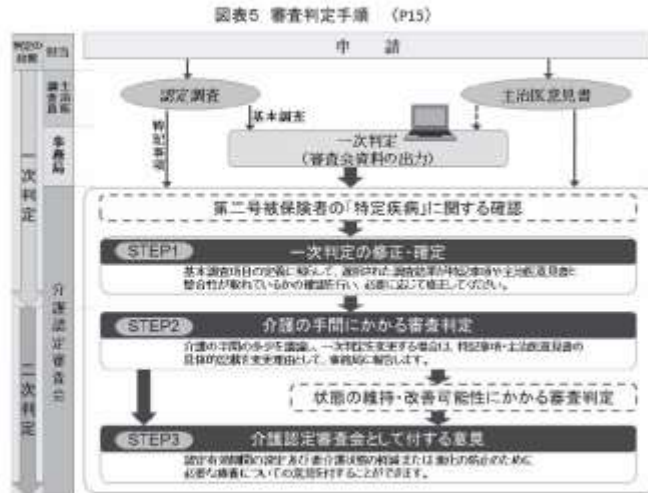
### 介護サービスの種類

概況調査で利用しているサービスと月単位の利用回数を聞き取ります

	都道府県・政令市・中核市が指定・監督を行うサービス	市町村が指定・監督を行うサービス
介護給付を行うサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎<b>居宅介護サービス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【訪問サービス】</li> <li>○訪問介護（ホムケアサービス）</li> <li>○訪問入浴介護</li> <li>○訪問看護</li> <li>○訪問リハビリテーション</li> <li>○在宅療養支援指導</li> <li>○特定施設入居者生活介護</li> <li>○福祉用具貸与</li> <li>○特定福祉用具販売</li> </ul> </li> <li>◎<b>施設サービス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護老人福祉施設</li> <li>○介護老人保健施設</li> <li>○介護療養型医療施設</li> <li>○介護医療院</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎<b>地域密着型介護サービス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○定期巡回・随時対応型訪問介護看護</li> <li>○夜間対応型訪問介護</li> <li>○地域密着型通所介護</li> <li>○認知症対応型通所介護</li> <li>○小規模多機能型居宅介護</li> <li>○認知症対応型共同生活介護（グループホーム）</li> <li>○地域密着型特定施設入居者生活介護</li> <li>○地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護</li> <li>○居宅サービス（※小規模多機能型居宅介護）</li> </ul> </li> <li>◎<b>居宅介護支援</b></li> </ul>
予防給付を行うサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎<b>介護予防サービス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【訪問サービス】</li> <li>○介護予防訪問介護</li> <li>○介護予防訪問看護</li> <li>○介護予防訪問リハビリテーション</li> <li>○介護予防在宅療養支援指導</li> <li>○介護予防特定施設入居者生活介護</li> <li>○介護予防福祉用具貸与</li> <li>○特定介護予防福祉用具販売</li> </ul> </li> <li>◎<b>施設サービス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護老人保健施設</li> <li>○介護老人保健施設</li> <li>○介護療養型医療施設</li> <li>○介護医療院</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎<b>地域密着型介護予防サービス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護予防認知症対応型通所介護</li> <li>○介護予防小規模多機能型居宅介護</li> <li>○介護予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム）</li> </ul> </li> <li>◎<b>介護予防支援</b></li> </ul>

この他、居宅介護（介護予防）在宅訪問、介護予防・日常生活支援総合事業がある。

## 審査判定の手順



上記、審査手順 STEP1【一次判定の修正・確定】において、審査員が確認するポイント

- ① 調査上の単純ミス(定義と特記事項の不整合)
- ② 日頃の状況と異なる場合(能力・麻痺拘縮の有無)
- ③ より頻回な状況で選択している場合(介助の方法)
- ④ 適切な介助の方法を選択している場合(介助の方法)
- ⑤ 選択に「迷った」場合
- ⑥ 特別な医療の項目を選択している場合
- ⑦ 寝たきり度・認知症自立度  
明らかに誤りがあると考えられる場合

認定調査員テキストの「定義」「選択基準」「留意点」を理解し、審査会に伝わる特記事項を記入します。

認定調査員は審査に必要な情報を提供する立場

介護認定審査会の役割 【介護の手間の審査】

- ◆ 通常の例と比べて、より長い(短い)時間を介護に要していないか。

【STEP2】

- ◆ 実際に、行われている介助が不適切ではないか。【STEP1-4】



総合的に判断し、一次判定を修正・確定し、必要に応じて一次判定の変更を行うことができる唯一の場「意思決定の場」である。

介護認定審査会において、認定調査員の特記事項は、「基本調査(選択根拠)の確認」と「介護の手間」という2つの視点から活用される。それぞれの目的を果たすため、「選択根拠」、「手間」、「頻度」の3つのポイントに留意し、特記事項を記載します。

審査判定の手順を確認しておきます。一番上の「申請」から「結果通知」まで原則として30日以内です。

個々の審査内容を理解し、特記事項の重要性和記入ポイントを確認しておきます。

審査手順 STEP1

認定調査員テキストの「定義」「選択基準」「留意点」を理解し、審査会に伝わる特記事項を記入します。

審査手順 STEP2

介護の時間にかかる審査判定

認定調査員は「情報提供者」

介護認定審査会は「意思決定の場」

## 3つの評価軸

認定調査項目の判定の基準は3軸

### 3つの評価軸の特徴

	能力	介助の方法	有無
主な調査項目	身体的能力 (第1群を中心に10項目) 認知的能力 (第2群を中心に3項目)	生活機能 (第2群を中心に12項目) 社会生活への適応 (第5群を中心に4項目)	麻痺等・拘縮 (第1群の9部位) BPSD関連 (第4群を中心に18項目)
選択肢の特徴	「できる」「できない」の表現が含まれる	「介助」の表現が含まれる	「ない」「ある」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	試行による本人の能力の評価	介護者の介助状況(適切な介助)	行動の発生頻度に基づき選択(BPSD)※
特記事項	日頃の状況 選択根拠・試行結果 (特に判断に迷う場合)	介護の手間と頻度 (介助の量を把握できる記述)	介護の手間と頻度 (BPSD)※
留意点	実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合 「日頃の状況」の意味にも留意する	「実際に行われている介助が不適切な場合」	選択と特記事項の基準が異なる点に留意 定義以外で手間のかかる頻度の行動等がある場合(BPSD)※

#### 初任者の悩みの1つ「選択肢を迷う場合」

「定義」「選択基準」「留意点」「Q&A」に基づいて確認をしても迷う場合は、「迷ったこと」「迷った理由」「選択根拠」を特記事項に記載しておく。審査手順 STEP1-5で、認定調査員が判断に迷った内容を特記事項で確認し、認定調査員の選択の妥当性について確認・修正など議論し、意思決定が行われます。

#### 基本調査の定義と疑義について

個別の状況に対する「個別の解釈」は、基本的に厚生労働省が提示している「認定調査員テキスト 2009(改訂版)」と「要介護認定等の方法の見直しに係るQ&A」(平成21年9月30日)以外には存在しない。個別の解釈を示した場合、全国すべての調査員が、これら多数の「個別の解釈」を把握しない限り、標準化は進まない。全体のばらつきが、「一次判定に影響を及ぼす」と考えられるような疑義が発生している場合には、必要に応じて「Q&A」を発出する。

#### 調査の実施及び留意点 《認定調査員テキストP6》

◆状況が一時的に変化している場合等で、適切な調査が行えないと判断した時にはその場では認定調査は行わず、状況が安定した後に再度調査日を設定。

認定調査項目は74項目あり、3つの評価軸に分類されています。

初任者のお悩みの1つである  
選択肢を迷う場合

「定義」「選択基準」「留意点」  
「Q&A」に基づいて確認しても  
迷う場合は、「迷ったこと」  
「迷った理由」「選択根拠」を  
特記事項に記載します。



審査手順 STEP1-5で  
議論し、意思決定が行われます。

認定調査を始める前に、  
必ずご本人の体調確認を  
しておきましょう。



## 有無の評価軸

**有無** 有無で評価する調査項目(21項目)

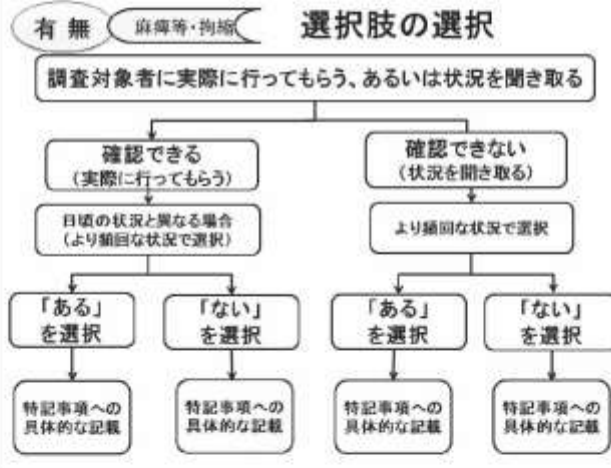
第1群	第4群
1-1 麻痺等の有無 1-2 拘縮の有無	4-1 被害的 4-2 作話 4-3 感情が不安定 4-4 昼夜逆転 4-5 同じ話をする 4-6 大声をだす 4-7 介護に抵抗 4-8 落ち着きなし 4-9 一人が出たがる 4-10 収集癖 4-11 物や衣類を壊す 4-12 ひどい物忘れ 4-13 独り言・独り笑い 4-14 自分勝手に行動する 4-15 話がまとまらない
第2群	
2-12 外出頻度	
第3群	
3-8 徘徊 3-9 外出すると戻れない	
第5群	
5-4 集団への不適応	

有無で評価する調査項目は  
21項目

21項目以外に「その他の医療」  
も有無に分類されます。

### 調査事項の選択肢の選択及び「特記事項」記載の流れ

有無の評価軸には「麻痺等・拘縮の有無」「BPSD関連の有無」2つがあります。



左は「麻痺等・拘縮の有無」の  
調査方法です。

概況調査の中で、  
「主訴・経過」等を把握し  
日常的に使用する機器等を  
確認しておきましょう。

概況調査の中で、「主訴・経過」等を把握し、日常的に使用する機器等を確認し、記入します。

### 第1群 1-1：麻痺等の有無 (下肢)

下肢麻痺「あり」が、「はずれ値」を示す要因になりうる調査方法・判断基準(業務分析データで「はずれ値」を示す要因(一部))

1. 厳密に水平まで挙上できるかを基準としている場合  
(軽度の可動域制限がある場合は、関節の動く範囲で行う)
2. 背もたれにもたれない状態で確認動作を実施している場合

1-1「麻痺等の有無」

業務分析データで  
「はずれ値」を示す要因(一部)

※ 1-1, 1-2の認定調査員テキストを熟読してください。  
 以下は SEO 財団 要介護認定平準化チェックシートの一部を抜粋していきます

**1-1** (座位の場合) 右手を、肘を伸ばしたままで肩の高さまで持ち上げられますか？  
 次は、左手をお願いします…(静止した状態で保持)

**麻痺等の有無**

- ※麻痺等とは、神経又は筋肉組織の損傷、疾病等により、筋肉の随意的な運動機能が低下又は消失した状況をいう
- ※麻痺等には、加齢による筋力の低下、その他の様々な原因による筋内の随意的な運動機能の低下によって、目的とする確認動作が行えない場合が含まれる。傷病名・疾病の程度は問わない
- ※深部感覚の障害等により、運動にぎこちなさがある場合であっても、確認動作が行えるかどうかで選択する
- ※関節に著しい可動域制限があり、関節の運動ができないために目的とする確認動作が行えない場合も含む
- ※軽度の可動域制限の場合は、関節の動く範囲で行う
- ※意識障害等で、自分の意思で四肢を十分に動かさないために、目的とする確認動作が行えない場合も含む

**上肢の挙上** …肘関節を伸ばしたままで、腕を肩の高さまで前方及び横に自分で持ち上げ、静止した状態で保持できるかどうかを確認する。円背の方はあくくくらいまでの高さ。

**座位** (①前方と②横のどちらかができなければ「あり」)

①前方に腕(上肢)を挙上する。 (静止)

②横に腕(上肢)を挙上する。 (静止)

**仰臥位**

〈仰臥位(仰向け)で行う場合〉  
 上肢を体側に添っておき、前方頭上に腕を挙上する。 (静止)

**下肢の挙上** …膝を伸ばす動作により、下肢を床に対して水平位置まで自分で挙上し、静止した状態で保持できるかどうかを確認する。

**座位**

①座位で膝が伸ばせるかを確認する。(股関節屈曲位からの膝関節の伸展) (静止)

**仰臥位**

②仰向けで膝の下に枕等を入れて膝から下(下腿)を持ち上げられるかを確認する。(仰臥位での股・膝関節屈曲位からの膝関節の伸展) (静止)

※大腿部がいすや枕等から離れないこと  
 ※膝関節に拘縮がある、下肢や膝関節等の生理学的な理由等で膝関節の完全な伸展そのものが困難である場合には、他動的に最大限動かせる高さまで挙上でき、静止した状態で保持できれば「なし」

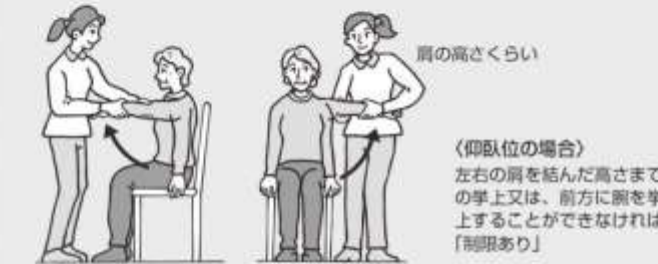
部 位	1. 確認動作が行えた。日頃も行える。麻痺等がない				確認動作は行えなかったが、日頃はできる。より頻回な状況で選択する		6. その他
	2. 左上肢	3. 右上肢	4. 左下肢	5. 右下肢	6. その他		
確認動作(調査時)	実施・未実施	実施・未実施	実施・未実施	実施・未実施	実施・未実施	①いずれかの四肢の一部(手指・足趾含む)に欠損がある ※欠損の場合1-2の「5」もチェック ※欠損によって目的とする確認動作が行えない場合、欠損している部位の選択肢も選択する ②上肢・下肢以外に麻痺等がある	
調査当日	[座位] 前方・横	前方・横	下腿を上げる	下腿を上げる			
※頻回な状況で選択	[仰臥位] 前方頭上のみ	前方頭上のみ					
	[座位] 前方・横	前方・横	下腿を上げる	下腿を上げる			
日頃	[仰臥位] 前方頭上のみ	前方頭上のみ					
状 況	麻痺・筋力低下	麻痺・筋力低下	麻痺・筋力低下	麻痺・筋力低下			
支障 ※特記事項へ	着脱 食事 洗身 排泄 料理 掃除	着脱 食事 洗身 排泄 料理 掃除	歩行 移動 入浴 着脱 排泄 外出	歩行 移動 入浴 着脱 排泄 外出		部位・状況等	

## 1-2 右手を、肘を伸ばしたままで肩の高さまで持ち上げられますか？ 次は、左手をお願いします…（他動運動によりできるか…）

### 拘縮の有無

- ※動作の開始から終了まで、4～5秒程度の時間をかけてゆっくり動かす
- ※「拘縮」とは、対象者が可能な限り力を抜いた状態で他動的に四肢の関節を動かした時に、関節の動く範囲が著しく狭くなっている状況
- ※「拘縮の有無」については、傷病名・疾病の程度、関節の左右や関節の動く範囲の程度、調査対象者の意欲等にかかわらず、他動運動により目的とする確認動作ができるか否かにより確認する
- ※疼痛のために関節の動く範囲に制限がある場合も含まれる
- ※左右のいずれかに制限があれば「制限あり」とする

### 肩関節 座位（前方あるいは横のいずれかに可動域制限がある場合「制限あり」）



### 膝関節

（最も負担をかけない「いずれか1つの方法」で確認）膝関節をほぼ真っ直ぐに伸ばした状態から90度程度他動的に曲げる



### 股関節



1. 確認動作は行えなかったが、日頃に行える。より頻回な状況で選択する。

確認動作が行えた。日頃も、四肢の関節の動く範囲の制限がない。  
（自分で行えた・自分ではできないが他動的に可能である）

部 位	2. 肩関節		3. 股関節		4. 膝関節		5. その他
確認動作	実施	未実施	実施	未実施	実施	未実施	①いずれかの四肢の一部（手指・足趾含む）に欠損がある ※欠損の場合1-1の「6」もチェック ※欠損によって目的とする確認動作が行えない場合、欠損している部位の選択肢も選択する ②「肩関節」「股関節」「膝関節」以外に他動的に制限がある場合（股挫、鎖骨など）
調査当日 【他動的に…】	右	左	右	左	右	左	
※頻回な状況で選択	他動・痛み	他動・痛み	他動・痛み	他動・痛み	他動・痛み	他動・痛み	
【座位】	前方・横		屈曲・外転		屈曲・伸展		
【仰臥位】	前方・横		屈曲・外転		屈曲・伸展		
日頃	前方・横		屈曲・外転		屈曲・伸展		
支障 ※特記事項へ	着脱 食事 洗身 排泄 料理 掃除		着脱 食事 洗身 排泄 料理 掃除		歩行 移動 入浴 着脱 排泄 外出		部位・状況 左・右



## 能力の評価軸

## 3つの評価軸の特徴

	能力	介助の方法	有無
主な調査項目	身体的能力 (第1群を中心に10項目) 認知的能力 (第2群を中心に4項目)	生活機能 (第2群を中心に12項目) 社会生活への適応 (第5群を中心に4項目)	麻痺等・拘縮 (第1群の9部位) BPSD関連 (第4群を中心に18項目)
選択肢の特徴	「できる」「できない」の表現が含まれる	「介助」の表現が含まれる	「ない」「ある」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	試行による本人の能力の評価	介護者の介助状況(適切な介助)	行動の発生頻度に基づき選択(BPSD)※
特記事項	日頃の状況 選択肢側・試行結果 (日に異なる状況)	介護の手間と頻度 (介助の量を把握できる記述)	介護の手間と頻度 (BPSD)※
留意点	実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合 「日頃の状況」の意味にも留意する	「実際に行われている介助が不適切な場合」	選択と特記事項の基準が異なる点に留意 定義以外で手間のかかる類似の行動等がある場合(BPSD)※

## 能力

## 能力で評価する調査項目(18項目)

第1群	第3群
1-3 寝返り 1-4 起き上がり 1-5 座位保持 1-6 両足での立位保持 1-7 歩行 1-8 立ち上がり 1-9 片足での立位 1-12 視力 1-13 聴力	3-1 意思の伝達 3-2 毎日の日課を理解 3-3 生年月日や年齢を言う 3-4 短期記憶 3-5 自分の名前を言う 3-6 今の季節を理解する 3-7 場所の理解
第2群	第5群
2-3 えん下	5-3 日常の意思決定

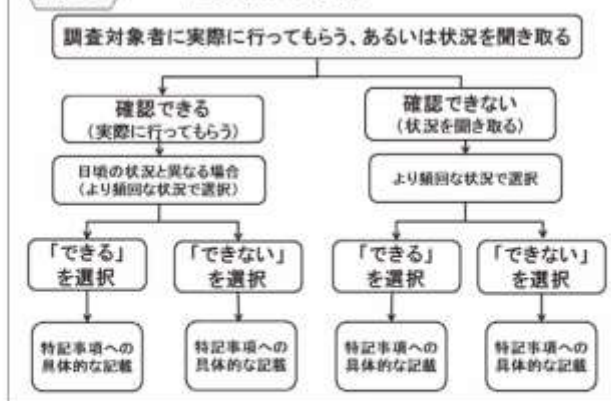
能力で評価する調査項目は

18項目

## 調査事項の選択肢の選択及び「特記事項」記載の流れ

## 能力

## 選択肢の選択



福祉用具(補装具や介護用品等)や器具類を使用している場合は、使用している状況で選択します。

「能力」の確認動作も

危険が無いかを確認

危険があれば日頃の能力を

聞き取ります。

まずは調査員テキストを熟読してください。※以下は SEO 財団 平準化チェックシートの一部を抜粋。  
 右下の「主訴」が重要。「つかまる理由」「できない理由」を聞き取り、特記事項に記入。

**1-3 横たわったまま、左右のどちらかに身体の向きを変えることができますか？（そのまま安定した状態になること）** 質問内容は一例

※日頃（同じ・異なる） ※状況が異なる場合は、より頻回な状況に基づいて選択

寝返り <b>能力</b>	1. つかまらないでできる (一度起き上がり、身体の方角を変える行動は、寝返りとは考えない)	①(横たわったまま)両側・右側・左側のみ(片側だけでよい) ②声をかければ何もつかまらずゆっくり寝返りをする ③仰臥位にはなれないが、側臥位から、うつ伏せになることはできる
	寝返りが自分でできるかどうか ふとん等をかけない状況で判断	①ベッド欄・ふとんの端・ひも・膝の裏・寝巻き等を持ち、寝返りする ②ベッド欄等につかまれば、上半身のみ向きを変えられる
	上半身のみ向きを変えられる場合も含む	①自分ではできず、日頃は_____が体位交換をしている ②一定の体位(仰臥位・側臥位(左・右))しかとれない ③一度起き上がり、身体の方角を変える
◆実施・未実施 (理由:体調不良、痛み、動けない、意識疎通困難) ◆肩痛・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・体力低下・円背		

◆の主訴は一例

**1-4 起き上がりはできますか？** ※特殊寝台レンタルの根拠として、ケアプランチェックで「起き上りの能力」等が使われます

※日頃（同じ・異なる） ※状況が異なる場合は、より頻回な状況に基づいて選択

起き上がり <b>能力</b>	1. つかまらないでできる (常時、ギャッチアップの状態にある場合は、その状態から評価)	①習慣的に(身体を支える目的ではなく)ベッド上に手や肘をつきながら起き上がる ②何もつかまらず起き上がる
	寝た状態から上半身を起こすことができるかどうか ふとん等をかけない状況で判断	①ベッド欄・ひも・膝の裏等を持ちながら起き上がる ②身体を支えるために、ふとんにしっかりと手や肘をつきながら起き上がる ③ベッド欄等を持って起き上がるが、日頃は電動ベッドを使用
	起き上りの経路については限定しない	①自分ではできず_____が起き上がらせている ②途中で自分で起きるが、最後に_____が起こしている ③自分では起き上がれず、電動ベッドを使用(本人・_____が操作)
◆実施・未実施 (理由:体調不良、痛み、動けない、意識疎通困難) ◆肩痛・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・体力低下・円背		

ギャッチアップの場合は常時であるか

しっかり加重

**1-5 10分間程度、いす等に座ることができますか？** 10分間程度

※日頃（同じ・異なる） ※状況が異なる場合は、より頻回な状況に基づいて選択

座位保持 <b>能力</b>	1. できる (いすに座る機会がない場合、畳上の座位でも可)	①安定して座れる ②10分間程度は座れる。それ以上は(つかまる・背もたれ等必要) ③車いすを使用中だが、背もたれを身体を支えとしておらず、何にかつかまる必要もない
	座位の状態を10分間程度保持できるか	①手すり・欄・座面・壁・肘かけ(_____)を持って座れる ②大腿部(膝の上)を手で支え、しっかりと加重していないと座れない
	長座位・端座位など、座り方は問わない	①背もたれ・肘かけ・前面の支え(ピースクッション)も必要 ②上体が後ろに倒れないよう、大腿部の裏側に手を差し入れ、太ももをつかんで座っている ③_____の手で支えていないと、10分間の座位が保持できない
	洗身・つめ切り 排便・着脱時等の座位は？	①おおむね1ヶ月にわたり、水平な体位しかとったことがない ②医学的理由(低血圧等)により座位保持が認められていない ③背骨や股関節の状態により体幹の屈曲ができない状態
◆実施・未実施 (理由:体調不良、痛み、動けない、意識疎通困難) ◆肩痛・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・体力低下・円背		

しっかりと加重

10分間程度の座位保持の能力を評価。日頃の能力も評価

理由は一例

要介護認定質問受付窓口にて寄せられる質問  
厚生労働省 老健局 老人保健課 要介護認定適正化事業

### 「能力」の調査項目について

#### よくある質問

- ・評価軸の理解不足により選択に混乱をする。  
例) 「1-5 座位保持」  
ほとんど臥床しているが、経管栄養を行うときのみ、1日に3回で30分くらい(1回10分程度)、ベッドをギャッチアップしている。  
この場合、座位保持は「支えてもらえばできる」を選択するのですか?

#### 考え方

- ・能力で評価する項目は、当該調査項目の行動等について、確認動作を可能な限り実際に試行し、「できるーできない」の軸で選択を行うことが原則です。
- ・しかしながら、特記事項を見ると、上記質問例のように申請者の生活状況や介助の状況で選択し、当該調査項目の行動等が「できるーできない」の軸で選択が行われていない例が見られます。能力の項目における「日頃の状況」は日頃の介助の状況や日頃の生活ではなく、調査当日以外においても、確認動作を行う能力があるかどうかという視点から評価する点に留意してください。
- ・その他、「立ち上がり」の確認動作を行う際には、安全に十分に配慮し、なるべく周りに何も無い状態で行うと、より正確に把握することが可能です。  
(目の前に机があれば、立ち上がりの際に机に手をつくのは自然なこと)

第1群 1-5:座位保持  
「日頃の状況」について

#### 考え方

「支えが必要」で選択の偏りが発生しやすい  
要支援・要介護1レベルで「支えが必要」を選択している調査員には「定義」「留意点」の理解、「選択肢の根拠」など、調査の仕方を確認することも大切。

#### 日頃の状況

日頃の生活(日中は居室のソファにもたれて過ごしている)ではなく、「日頃の能力」を評価。

#### 確認のポイント

食事摂取時、排便時、洗身時、爪切り時などの姿勢も含めて、日頃の10分間の「座位の能力」を評価していく。

#### よくある質問

#### 考え方

#### 「日頃の状況」について



日頃の能力は？

10 秒間程度

質問内容は一例

**1-6 平らな床の上で 10 秒間程度、(両足で) 立つことはできますか？**  
 ※日頃 (同じ・異なる)  
 ※片足が欠損・拘縮の方は、片足での立位保持の状況で選択  
※状況が異なる場合は、より類似な状況に基づいて選択

立位保持能力	1. 支えなしでできる ◆義足・器具等の使用 (有・無)	①安定してできる ②不安定だが 10 秒間程度は可能 (それ以上は、_____につかまっている)
10 秒間程度立位を保持できるか	2. 何か支えがあればできる ◆ゆっくり・時間がかかる	①壁・手すり・杖・歩行器等につかまれば (寄りかかれれば) できる ②自分の両脚などに、しっかりと手をつけば立てる
立ち上がるまでの行為は含まない	3. できない (又は身体を支える)	①介護者の手で常に支える必要がある ②支えても ( ) 秒しかできない (10 秒未満) ③まったく立位保持はできない

◆実施・未実施 (理由: 体調不良、痛み、動けない、意思疎通困難) ◆腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・体力低下・円背

要因は一例

**1-7 5m程度、継続して (立ち止まらず) 歩くことはできますか？**  
 ※日頃 (同じ・異なる)  
※状況が異なる場合は、より類似な状況に基づいて選択

歩行能力	1. つかまらないでできる	①安定して歩行できる ②5m程度は歩行できる (それ以上は、_____につかまっている) ③歩行できるが、安心のため日頃は杖 (歩行器等) を使用 ④全身 (筋力) のため、方向確認のため杖を使用 (物を伝って歩く)
5m程度継続して歩くことができるか 歩幅や速度は問わない	2. 何かにつかまればできる ◆ゆっくり・時間がかかる	①杖・四点杖・ロフトランド杖・歩行器・( ) を使用 ②壁・物・手すりを伝い歩行している ③自分の両脚につかまり歩行している ④_____に支えられて歩く
視覚障害者が身体を支える目的ではなく、方向を確認する目的で杖等を用いる場合は「1」をチェック	3. できない (又は介助が必要) ※日頃は車いす・ストレッチャー ※医療上の必要により、歩行制限がある	①5m程度は歩けない・歩行制限がある → (0・1・2・3・ ) m くらい ②実用的な歩行はできない・リハビリ時のみ平行棒につかまり ( ) m 歩ける ③呼吸困難等のため、途中で (座り込む等) 休憩が必要 (1・2・3・ ) m

◆実施・未実施 (理由: 体調不良、痛み、動けない、意思疎通困難) ◆ふらつく・転倒・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・体力低下・円背

5 m程度

歩行能力は？

ふらつく理由は？

**1-8 いす等からの「立ち上がり」はできますか？**  
 ※日頃 (同じ・異なる)  
※状況が異なる場合は、より類似な状況に基づいて選択

立ち上がり能力	1. つかまらないでできる	①習慣的に物につかまる (しっかりと加圧して立ち上がるまではない)
立ち上がりができるかどうか	2. 何かにつかまればできる ◆ゆっくり・時間がかかる	①ベッド欄・肘かけ・テーブルに強く手をつき立ち上がる ②_____を支えにして自分で立ち上がる (引き上げられる状況ではない) ③自分の両脚に手をついて、上肢に力を入れて立ち上がる ④いすの座面を後ろに押し出すようにして、上肢に力を入れて立ち上がる (立ち上がる際に、座面に身体を支える目的で加圧している場合は「2」)
膝をほぼ直角に屈曲して座った状態からの立ち上がり	3. できない	①_____が身体の一部を支えている ②_____が引き上げる ③支えても立ち上がれない

◆実施・未実施 (理由: 体調不良、痛み、動けない、意思疎通困難) ◆ふらつく・転倒・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・体力低下

膝をほぼ直角

ふらつく理由は？

**1-9 平らな床の上で、1 秒間程度、片足で立つことはできますか？**  
 ※日頃 (同じ・異なる)  
※状況が異なる場合は、より類似な状況に基づいて選択

片足での立位保持能力	1. 支えなしでできる	①右足・左足で可能 ②1 秒程度はできる (それ以上はつかまる)
1 秒間程度平衡を保てるか	2. 何か支えがあればできる	①壁・手すり・いすの背・杖等につかまれば (寄りかかれれば) できる
	3. できない (介助があれば可)	①_____が常に支える必要がある ②まったく片足立位はできない (寝たきり)

◆実施・未実施 (理由: 体調不良、痛み、動けない、意思疎通困難) ◆腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・体力低下・円背

## 介助の方法の評価軸

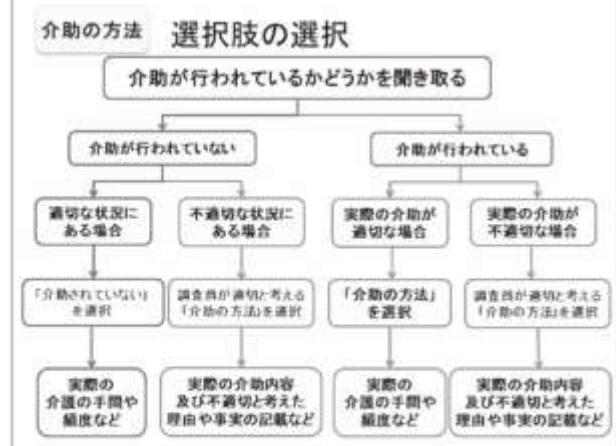
### 3つの評価軸の特徴

	能力	介助の方法	有無
主な調査項目	身体的能力 (第1群を中心(16項目)) 認知的能力 (第3群を中心(8項目))	生活機能 (第2群を中心(12項目)) 社会生活への適応 (第5群を中心(4項目))	麻痺等・拘縮 (第1群の9部位) BPSD関連 (第4群を中心(18項目))
選択肢の特徴	「できる」「できない」の表現が含まれる	「介助」の表現が含まれる	「ない」「ある」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	試行による本人の能力の評価	介護者の介助状況(適切な介助)	行動の発生頻度に基づき選択(BPSD)※
特記事項	日頃の状況選択(標準)・行動結果(特に1群に注目)	介護の手間と頻度(介助の量を把握できる記述)	介護の手間と頻度(BPSD)※
留意点	実際にやってもらった状況と日頃の状況が異なる場合「日頃の状況」の意味にも留意する	「実際に行われている介助が不適切な場合」	選択と特記事項の基準が異なる点に留意 定義以外で手順の異なる類似の行動等がある場合(BPSD)※

### 介助の方法 介助の方法で評価する調査項目 (16項目)

第1群	第5群
1-10 洗身 1-11 つめ切り	5-1 薬の内服 5-2 金銭の管理 5-5 買い物 5-6 簡単な調理
第2群	
2-1 移乗 2-2 移動 2-4 食事摂取 2-5 排尿 2-6 排便 2-7 口腔清潔 2-8 洗顔 2-9 整容 2-10 上衣の着脱 2-11 スポンジ等の着脱	

### 調査事項の選択肢の選択及び「特記事項」記載の流れ



実際に行われている介助が不適切な場合

一番下のフローチャートをご覧ください。

実際に行われている介助が不適切な場合「適切」「不適切」を評価

介護の手間や頻度も聞き取ります。



### 「実際に行われている介助が不適切」と考えられる場合

最初の「概況調査」の時に独居、家族状況等を把握しておくことで、実際の介助の方法が「適切」「不適切」の評価に活かしていくことができます。

- 独居や日中独居等による介助者不在のために適切な介助が提供されていない場合
- 介護放棄、介護抵抗のために適切な介助が提供されていない場合
- 介護者の心身の状態から介助が提供できない場合
- 介護者による介助が、むしろ本人の自立を阻害しているような場合 など

### 適正化事業(全国)で多かった指摘【認定調査】

- 「介護の手間」が記載されていない「特記事項」  
「介助の方法」の項目や「BPSD関連」の項目では、「介護の手間」に関する記載が審査判定において最も重要な記述となるが、具体的な記載がないのがみられる。
- 「頻度」が記載されていない「特記事項」  
具体的な「介護の手間」が記載されていても、その頻度が明確でない場合が多くみられる。排尿や移動など個人差が発生しやすい項目では「頻度」の記載が重要である。
- 「適切な介助」で選択した場合の「判断理由」  
「介助の方法」の項目については、実際に行われている介助が不適切であると判断した場合は、「その理由」を記載した上で、「適切な介助」(必要と判断される介助)を選択できるが、「不適切と判断した理由や、選択した介助が適切であると判断した理由」が不明なものがみられる。

### 再確認

#### 介護保険法第1条(目的)

この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に

起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

「尊厳」「有する能力」「自立」「必要なサービス」  
認定調査を行うポイントが記載されています

メモ

---

---

---

---

---

---

## 1 群

質問内容は一例

**1-10 お風呂場で身体を洗う時、どなたかにお手伝いしてもらっていますか？** ※自宅・通所先・訪問入浴・福祉浴・シャワー浴・清拭 ※入浴回数（回/週） ※洗髪、洗顔、入浴行為は含まない ※介助が不適切な場合、適切な介助の方法を選択する

洗身 介助	1. 介助されていない (介護施設等のため、適切な介助が提供されていない場合「適切な介助」を選択)	①自分で洗うが、時間がかかる ②洗いやすい洗身ブラシ等の自動具を使用する
浴室内で、スポンジや手拭い等に石鹸等を付けて全身を洗うことだが、石鹸等が付いていなくても、あくまでも体を洗う行為そのものについて介助が行われているかどうかで選択を行う	2. 一部介助（見守り等） (石鹸等を付ける行為への介助ではなく、身体の各所を洗う行為について評価)	① ( ) のため、 ( ) の一部(背中・足・ ) を洗う・洗身し直す ②自分で洗うが、 ( ) のため ( ) が見守りをしている ③独居等で介護者がいない、自分で洗っているが ( ) のため、(背中・足)等は洗えていない。(汗疹・痒み・ ) があり、一部介助が必要と考え「2.一部介助」を選択する
	3. 全介助	① ( ) のため、 ( ) がすべて洗っている。自分で洗うことができない ②自分で洗えないので ( ) がすべてを洗身し直す
	4. 行っていない	①日常的に洗身を行っていない ② ( ) のため、(自分で、 ) が清拭をしている
	◆肩痛・肘痛・手指の痛み(変形)・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・視力・意欲・理解・不十分・業務の都合・倦怠感	

介助の理由が大切

**1-11 つめを切る時は、どのようにしていますか？** ※つめ切り回数（回/月） ※介助が不適切な場合、適切な介助の方法を選択する

つめ切り 介助	1. 介助されていない (介護施設等のため、適切な介助が提供されていない場合「適切な介助」を選択)	①自分で行うが、時間がかかる ②自動具で切りやすいつめ切り（つめやすり）を使用する ③デイサービスの職員が入浴後に手足とも切っているが、自宅では自分ですべて切っている。適切な介助の方法で「1.介助されていない」を選択する
体調等で介助の方法が異なる場合はおおむね過去1ヶ月の状況で、より頻回な状況で選択する (1ヶ月はつめ切りのみ) つめがない場合は、四肢の清拭等の状況で代替して評価する ※類似行為評価	2. 一部介助（見守り等） ※切った場所の情報は含まない	①自分で切るが、 ( ) のため、つめ切りの準備を ( ) が介助 ② ( ) のため、手(右、左)、足(右、左)を ( ) が介助 ③自分で切るが、 ( ) のため、つめを切る時に ( ) が見守り・指示をしている ④自分で切るが、切ったつめを ( ) が捨てている ⑤独居等で介護者がいない、自分で切っているが ( ) のため、(足・麻痺側・ ) 等は介助が必要と考え「2.一部介助」を選択する
	3. 全介助	① ( ) のため ( ) がすべてのつめを切っている（適切な介助？） ②自分で切るが不十分なので ( ) がすべてのつめを切り直している
	◆深づめする・つめが硬い・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・視力・理解・危険・意欲・業務の都合・倦怠感	

行為が発生しない場合  
つめ切りは「類似行為で評価」介助の方法の項目  
「一連の行為」に含まれないものを理解しておきましょう。  
含まれないものであっても「介護の手間」が発生していれば頻度と主に特記事項に記入。適切な介助かどうかは、介助の理由が重要。  
特記事項にも主訴と連動しながら、介助の理由を記入していきましょう。

メモ

---



---



---



---



---

「能力」の評価軸に戻ります。

**1-12** 普段使用している眼鏡などを使用した状況で、新聞や雑誌などの文字は見えますか？ ※確認表は本人の正面に置く

**「普通」とは** ※より頻回な状況で選択する

<p><b>視力 能力</b></p> <p>視力を評価 十分な明るさを確保 知的能力は問わない</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普通（新聞・雑誌などの字が見え、日常生活に支障がない程度の視力を有している）</li> <li>2. 約 1m 離れた視力確認表の図が見える（新聞・雑誌などの字は見えない）</li> <li>3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える（約 1m 離れた視力確認表の図は見えない）</li> <li>4. ほとんど見えない（全盲・明暗のみ）</li> <li>5. 見えているのか判断不能（認知症等で意思疎通ができない）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①眼鏡・拡大鏡使用</li> <li>②右・左の視力の差</li> <li>③視野狭窄・視野欠損なども含まれる（右・左）</li> </ol>
--	--	--

**1-13** 耳はよく聞こえますか？ 聞き間違えたりしませんか？  
(補聴器使用の方は、使用した状況で評価) ※より頻回な状況で選択する

<p><b>聴力 能力</b></p> <p>聞こえるかどうか 身振りでも可 耳で聞いた内容の 理解等の知的能力を 問うものではない</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普通（普通に聞きとれる。日常生活における会話において支障がない）</li> <li>2. 普通の声ややっと聞きとれる（聞きとりにくく、聞き間違えたりする）</li> <li>3. かなり大きな声なら何とか聞きとれる（耳元で大きな声で話す等）</li> <li>4. ほとんど聞こえない</li> <li>5. 聞こえているのか判断不能（認知症等で意思疎通ができない）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①補聴器使用</li> <li>②右・左の聴力の差</li> </ol> <p>※声で話す、音を出して反応を確かめる等の方法で評価</p>
--	--	--

声で話す、音を出して反応を確かめる



メモ

---



---

**介助の方法** 介助の方法で評価する調査項目  
(16項目)

第1群	第5群
1-10 洗身 1-11 つめ切り	5-1 薬の内服 5-2 金融の管理 5-5 買い物 5-6 簡単な調理
第2群	
2-1 移乗 2-2 移動 2-4 食事摂取 2-5 排尿 2-6 排便 2-7 口腔清潔 2-8 洗顔 2-9 整容 2-10 上衣の着脱 2-11 スボン等の着脱	

**2群**

質問内容は一例

**2-1** (いす・トイレ等に) 乗り移る時は、日頃どのようにして  
いますか？ お手伝いはしてもらっていますか？ (1-Bリンク)

移乗	(いす・車いす・ポータブル・トイレ・体位交換時の移乗・シーツ交換時の移乗・移乗の機会がない)	
介助	1. 介助されていない	① ベッド欄・杖・手すりにつかまり一人で移乗している ② 畳の生活。這って一人で移乗している (仰向けでも可)
移乗の介助が行われているかどうか	2. 見守り等	① _____ が常時の付き添いの必要がある「見守り」をしている。確認・指示・声かけ ② 動作にあわせて、_____ が車いす等をお尻の下に差し入れている ③ 独居等で介護者がおらず、移乗時の転倒が多い (足にアザ)。移乗時に常時の見守り等が必要と判断し、「2. 見守り等」を選択する。
義足や装具、歩行器などの準備は介助の内容に含まれない	3. 一部介助	① ( ) のため、_____ に体幹・腰を支えられて移乗している ② ( ) のため、_____ に手を引かれて移乗している
「移乗」の機会がない場合は、「移乗」の行為が生じた場合を想定し、適切な介助を選択	4. 全介助 (自分で移乗ができない)	① _____ に抱えられて移乗している ② 移乗の機会はないが、体位交換・シーツ交換時に臀部を浮かす介助を受けている ③ (医学的な理由から、 ) 移乗の機会がない。四肢ともに筋力低下が顕著。(車いす・ストレッチャー・ ) 等には、抱える介助が適切と判断し「4. 全介助」を選択する
	※より頻回な状況で判断 ◆ふらつく・転倒・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・意欲・視力・理解・業務の都合・倦怠感	

常時の付き添い

移乗の機会が無い場合

介助理由は一例

メモ

---



---



---



---



---

## 2-1 移乗

### ● 軽度者の移乗をどう考えるか。

※定義されている「移乗」行為がない場合は「調査対象の行為が発生しない場合」の規定と同様に考える。

### ● 移乗の類似行為は存在するか？

※「ベッド→歩行→便座(着座)」は移乗行為ではない。

※移乗の規定：「ベッドから車いす(いす)へ」「車いすからいすへ」

「ベッドからポータブルトイレへ」「車いす(いす)からポータブルトイレへ」

「畳からいすへ」「畳からポータブルトイレへ」「ベッドからストレッチャーへ」等

でん部を移動させ、いす等に乗り移ること。

### ● 体位交換の取り扱い

※最重度者における体位交換の特記事項については、

「1-3：寝返り」(能力の項目)よりも、「2-1：移乗」(介助の方法の項目)に頻度と共に記載するほうがわかりやすい。

## 解説

### 「実際の介助の方法」が不適切な場合のポイント

「不適切」と考える理由は特記事項に記載する。

- ・理由が明記されていないと、審査会委員は、調査員の判断が妥当かどうか確認することができない。  
(理由の有無は、特記事項チェックの最大のポイントの一つ)

介助の「適切性」は総合的に判断する。

- ・独居、老々介護のみを理由に判断するものではない。
- ・単に「できる・できない」といった個々の行為の能力のみで評価せず、生活環境や本人の置かれている状態なども含めて、総合的に判断する。
- ・生活の中で行われる介助は、本人の生活習慣などにも影響を受ける。

**【再確認】**これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行う(後略)(介護保険法第1条)

## メモ

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



## 2-2 トイレや浴室等に移動する時は、お手伝いしてもらっていますか？

※外出頻度は含まない ※移動の手間は問わない ※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

移動	移動先	トイレ等	食堂	居室	洗面所	風呂場	リハビリ室
介助	回数	回/日	回/日	回/日	回/日	回/週	回/週
(日頃、過ごしている場所は?) → 居室・リビング・食堂							
専任の介助が行われているかどうか	歩く(見守り・杖(手すり)・歩行者・押し車・支える・抱える)・車いす(自操(見守り)介助)・ストレッチャー						
「移動」の機会がない場合は、「移動」の行為が生じた場合を特定し、適切な介助を選択	1. 介助されていない ◆ゆっくり・時間がかかる		① ( ) を使用し移動する ② 杖(手すり)を支えにして移動する ③ 車いすを自分で駆動している一左・右(手・足)で駆動				
義足や装具等を装着している場合や、車いす・歩行者などを使用している場合は、その状況に基づいて評価する。	2. 見守り等		① 常時の付き添いの必要がある「見守り」をしている。 確認・指示・声かけ				
車いす使用の際、車いす等に移動したおとの移動について選択	3. 一部介助		① 手が、手を支える ② 手が、身体を支える ③ 手が、敷居などの障害で車いす・歩行者などを押している ④ 手が、コーナーを回る時に、支えたり、車いす・歩行者などを押している ⑤ 途中まで介助すると、後は自分で移動する ⑥ 途中で離れなくなるので、最後は 手が介助				
	4. 全介助 (自分で移動ができない)		① 手が、常に車いす(ストレッチャー)を押す ② 手が、抱えて移動する ③ (医学的な理由から、 ) 移動の機会がない。四肢ともに筋力低下が顕著であり、(車いす)自走はできない・ストレッチャーが必要と判断し、「4. 全介助」を選択する				
	※医学的理由から移動が禁止されている						
	※より頻回な状況で判断 ◆ふらつく・転倒・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・意欲・視力・理解・薬物の都合・倦怠感						

移動場所と移動状況  
頻度、個々の手間量を  
確認

常時の付き添い

介助理由は一例

### 第2群 2-2: 移動

移動は日常生活に関する総合的な調査項目

一各調査項目の聞き取りで総合的に把握する(特に排尿)。

一想定される場面

- ・自宅内での移動(食事、トイレ、台所、来客時など)
- ・入浴時：通常時に介助がない場合でも施設やデイサービスなどの大浴場での対応が異なる場合がある。
- ・移動の機会を特定することが重要(=活動性や頻度を把握することができる)
- ・外出時の移動や転倒等の頻度について丁寧な聞き取りを行う(特に軽度者)

一定義上、「外出時」の移動は、評価の対象に含まれない(基本調査の選択には含まれない)ものの、外出時の介助は、特に軽度者の介護の時間にかかる審査判定において議論されることが多いことから、「2-12：外出頻度」などと関連づけて特記事項を記載することが望ましい。

一「2-2 移動」で「介助されていない」を選択する場合でも、転倒等の頻度により、申請者に必要な「機能訓練」に関する評価が異なる可能性がある。

移動場所と頻度、個々の手間量を確認

※調査日よりおおむね過去1週間の状況において、より頻回に見られる状況や日頃の状況で選択

### 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

ランク J	日常生活はほぼ自立 自力で外出する	1	公共交通機関を利用して積極的に外出。かなり遠くまで外出
		2	隣近所への買い物や老人会等への参加等(町内の距離程度)
ランク A	屋内の生活はおおむね自立 介助なしには外出しない	1	ほとんどベッドから離れて生活。比較的多く介助で外出する
		2	寝たり起きたりの生活で、まれにしか外出しない
ランク B	屋内の生活は何らかの介助を要し、 日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ	1	介助なしに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う
		2	介助のもと移乗。食事または排泄も介助
ランク C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、 着替えにおいて全面的に介助を要する	1	寝返りはできる
		2	自力で寝返りはできない。ベッド上で常時臥床

7-1寝たきり度  
起居動作・移乗・移動場所と  
頻度、外出等を確認

自立・J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2  
選択根拠:

### 2-3 食事の時、飲み込みは自然にできますか？（食物）

※「能力」の項目であるが、必ずしも試行する必要はない。おおむね1週間の状況において頻回な状況や日頃の状況で選択し、用しやすく（同じこと）や口腔内の状況を評価するものではない。

えん下	◆日頃の食事は 普通食・やわらかめ・きざみ食・ミキサー食・流動食・経管栄養・中心静脈栄養	
能力	1. できる	①(普通食・ )では飲み込みが悪かったが、現在の食事の形態では自然に飲み込んでいる
飲み込むという行為ができるか	2. 見守り等 ※「できる」「できない」のいずれにも含まれない場合	①自然に飲み込みにくく、 ②えん下ができたりできなかつたりする（より頻回な状況で判断） ③口の中のため込み、飲み込まないため ④飲み込みにくく、喉に詰まることがある（必ずしも見守りが行われる必要はない）
日頃の食物形状で判断し、その状況を「特記事項」へ	3. できない (えん下ができない)	①経管栄養（経鼻・胃ろう）（2-4・その他の医療の9リンク） ②中心静脈栄養（2-4・その他の医療の2リンク）
のどの飲み込みの状況を確認「でっくん」	※経管栄養でも、日頃、飲み込みができれば、「1」か「2」を選択	

### 2-4 食事の時に、見守りやお手伝いをしてもらっていますか？

※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認 ※食事時間（ 分）

食事摂取	「適切」「不適切」を評価	
介助	1. 介助されていない 箸・スプーン・自動皿を使用（右手・左手）	①1人で摂取できている（見守りは不要） ②朝食等のみ（ ）の介助を受けるが、他の2食は自立している
「食物を摂取する」一連の行為	2. 見守り等 ※皿の置き換えも含まれる（介助は適切か…）	①食事中 が常時の付き添いの必要がある「見守り」をしている（確認・指示・声かけ。（理由は？） ②食事中 が皿の置き換えをしている（理由・頻度は？） ③朝食等で介助者がいない。（ ）の状況であり「見守り等」を選択
(食物を)食卓から口に入れるまでの行為	3. 一部介助 ※食卓でほぐす・小さく切る・スプーンに乗せる等も含む	①自分で食べるが、最後は が食べさせる（理由・頻度は？） ②初めに食べさせると、後は自分で食べている（理由・頻度は？） ③自分で食べているが、 が食卓で食べやすいように介助している（理由・頻度は？）（食卓で小さく切る・ほぐす・皮をむく・魚の骨をとる） ④ が、スプーン等に食べ物を乗せる介助をしている（理由・頻度は？）
状態が見える場合、より頻回な状況で選択	4. 全介助 ※経管栄養・中心静脈栄養の介助がされている場合も含む	① が全介助 ②経口摂取は禁じられており、 が経管栄養・中心静脈栄養のための注入介助をしている（ 回/日） ※看護師等が介助の場合は「医療2-9」リンク※
食事の量、適切さを評価する項目ではなく、「食事摂取」の介助が行われているかどうかを評価する	※調理・配膳・いすに座らせる・エプロンをかける・後片付け・食べこぼしの掃除などは含まれない ◆こぼす・箸が止まる・肘や手の痛み・麻痺・筋力低下・振戦・視力・意欲・無関心・理解・業務の都合・倦怠感	
	介助理由は一例	

#### 特記例

##### 2-4 食事摂取 【3・一部介助】

朝は体調が良いため、自分で箸を持って摂取できており、家族の見守りの必要はない。昼から夜にかけて肘の痛みが強くなるため、昼食と夕食は、家族が食卓で小さく切ったり、ほぐしたりする介助をしている(1時間)。食事の摂取は箸を使用し時間をかけながら、自分で食べることができている。より頻回な状況から、「一部介助」を選択する。

適正な介助かどうかは、介助の理由が重要  
特記事項に主訴と連動させながら、  
介助の理由を記入していきましょう。

## 2-5,6 排尿や排便の時に、お手伝いをしてもらっていますか？

※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認 ※「排せつ支援加算」でも使用される

質問は一例  
(羞恥心・自尊心に  
ご配慮を)

介助 2-5 排尿 (○を付ける)		排泄場所	介助 2-6 排便 (○を付ける)	
トイレ・ポータブル・尿器・おむつ パッド・カテーテル (留置・開欠導尿) 人工透析 (腹膜透析)・集尿器	回/日	昼 ※透析の方・排尿 (有・無)	トイレ・ポータブル・便器・おむつ パッド・換便・洗器・人工肛門 (ストーマ)	回/日
トイレ・ポータブル・尿器・おむつ パッド・カテーテル (留置・開欠導尿)	回/日	夜	トイレ・ポータブル・便器・おむつ パッド・換便・洗器・人工肛門 (ストーマ)	回/日

より頻回な  
状況で判断

(昼・夜が多い) 昼と夜で、介助の内容が違う場合は、頻度の多いほうで以下を判断 (昼・夜が多い)

★尿意 (ある・ときどき・ない)	行為	※移動・移乗は評価しない	行為	★便意 (ある・ときどき・ない)
見守り・指示等	有・無	◆トイレ等への誘導するための確認・声かけ等	有・無	見守り・指示等
見守り・指示等	有・無	◆ズボン・パンツの上げ下げ	有・無	見守り・指示等
見守り・指示等	有・無	◆トイレ等への排泄時に腹部を押す等の行為	有・無	見守り・指示等
見守り・指示等	有・無	◆陰部・肛門部の清拭 (拭く)	有・無	見守り・指示等
見守り・指示等	有・無	◆トイレの水洗・尿器・便器等の掃除 (一括でも可)	有・無	見守り・指示等
見守り・指示等	有・無	◆おむつ・パッド・紙パンツの交換 (頻度)	有・無	見守り・指示等
見守り・指示等	有・無	◆カテーテルの準備・後始末・バック内の尿の始末	有・無	見守り・指示等
見守り・指示等	有・無	◆人工肛門 (ストーマ) 袋の準備・交換・後始末	有・無	見守り・指示等

排尿・排便は  
トイレ等への  
誘導等を含む

理由は？  
頻度は？

2-5 排尿	1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
2-6 排便	1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助

※使用したポータブルトイレなどの後始末を一括で行う場合は、直後かどうかや、回数にかかわらず後始末として評価  
 ※失禁した場合の衣服の更衣に関する介助は「2-10 上衣・2-11 ズボン」で評価  
 ※人工透析を行い、排尿がない場合は (排尿の) 介助自体がなく「1. 介助されていない」を選択  
 ※洗濯や換便等の行為そのものは含まれないが、これらの行為に付随する排便の一連の行為は含む  
 (例) 週1回看護師が換便する。ズボン等の上げ下げ、肛門の清拭に介助をしており「4. 全介助」を選択  
 (例) 人工肛門で、ストーマ袋の準備・片付けは介護者。ストーマ袋の交換は本人。「3. 一部介助」を選択

### ●失禁時の「適切な介助の方法」の考え方

- 失禁の原因がどこにあるかによって「適切な介助の方法」を検討する  
調査項目が異なる。

- ◆トイレまでの移動に介護が必要な場合は「2-2 移動」
- ◆ズボンの上げ下げ・トイレへの誘導の声かけが必要な場合は「2-5 排尿」「2-6 排便」

一連の行為を理解し  
「適切」「不適切」を  
評価していく

- 独居等で失禁時の対応を自身で行っている場合の評価  
適切にできているのかという点を十分に確認
- 認定調査員が「不適切」と判断する場合は、そのように判断する  
具体的な理由や事実を特記事項に記載した上で、選択の妥当性について審査会の判断をあおぐ。

### 特記例

#### 2-5 排尿【一部介助】

尿意はあり、ベッド横のポータブルトイレを使用し自分で排尿している。  
ズボンの上げ下げ、拭く行為などは、見守りなく自分ですべて行っている (10 回/日)。  
下肢の筋力低下があり歩行が不安定なので、自分でポータブルトイレの後片づけができず、家族が 1 日に 1 回程度、まとめて片づけをしている。

### 特記例

#### 2-5 排尿【介助されていない】

尿意はあり、昼間 (6 回) は居室横のトイレで介助なく排尿できている。  
夜間 (2 回) はベッド横のポータブルトイレを使用し自分で排尿している。  
夜間から朝にかけて膝の痛みが特に強く、自分でポータブルトイレの後片づけができず、家族が翌朝 1 回、まとめて片づけをしている。  
頻度から「1. 介助されていない」を選択する。



## 2-7 歯磨きはどのようにしていますか？ お手伝いはしてもらっていますか？

※「生活習慣や介護抵抗などしていない」⇒適切な「介助の方法」を選択する

※①すべて自分の歯 ②部分義歯＋残歯 ③全義歯 ④歯、義歯もない

※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

口腔清潔 介助	1. 介助されていない	①自分ですが、時間がかかる。歯磨き粉を付けない場合も含む ②事前に_____が誘導すると、後は自分で行っている
一連の行為 「歯ブラシやうがい用の水を用意」 「歯磨き粉を歯ブラシに付ける等の準備」 「乾磨をはずす」 「うがいをする」等 ※歯磨き粉を付けない、口腔洗浄剤使用の場合も	2. 一部介助 (歯磨き中の見守り・指示) ※洗面所への誘導・移動、洗面所周辺の掃除等は含まない	①歯ブラシ・水の準備を_____が介助。後は自分で行う ②少しは自分で磨くが不十分。不十分な所を_____が介助 ③全義歯。自分ではさすが、_____が手入れをする ④_____が義歯をはずすが、自分で手入れをする ⑤自分で磨くが、歯磨き中に_____が見守り・指示をしている(理由は?) ⑥_____が磨き残しの確認をする(理由は?) ⑦独居等で介助者がいない。自分で磨いているが(_____)のため不十分。(上・下・奥)の介助が必要と考え、「2.一部介助」が適切と判断した
	3. 全介助	①_____がすべて磨いている ②全義歯。はずす行為も手入れも_____がしている ③自分で磨くが、_____がすべて磨き直す。うがいも介助している ④_____が歯を磨いてあげ、口元までコップを持って行ってあげると、本人は口をすすぎ、吐き出すことはしている

「適切」「不適切」を評価していく

洗面所への誘導等は含まない

◆肩痛・肘痛・手指の痛み(変形)・麻痺・筋力低下・視力・理解・意欲・業務の都合・倦怠感

## 2-8 顔を洗う時、お手伝いはしてもらっていますか？

※「生活習慣や介護抵抗などしていない」⇒適切な「介助の方法」を選択する

※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

洗顔 介助	1. 介助されていない	①自分ですが、時間がかかる ②事前に_____が誘導すると、後は自分で行っている
洗顔の介助が行われているかどうか 一連の行為 「タオルの準備」 「蛇口をひねる」 「顔を洗う」 「タオルで拭く」 「衣類の濡れの確認」 ※類似行為評価	2. 一部介助 (洗顔中の見守り・指示) ※洗面所への誘導・移動、洗面所周辺の掃除等は含まない	①_____がタオル・水を準備すると自分で拭ける ②_____が蛇口をひねる ③自分で洗う(拭く)が不十分。不十分な所を_____が介助(洗い直す) ④自分で洗うが、洗顔中に_____が見守り・指示をしている(理由は?) ⑤自分で洗うが、衣類が濡れていないか_____が確認している ⑥独居等で介助者がいない。自分で洗っているが(_____)のため不十分。(目・口)などの介助が必要と考え「2.一部介助」が適切と判断した
	3. 全介助	①_____が、すべて拭いている ②自分で洗うが_____がすべて洗い直す ③本人の能力はあると思われるが、十分な清潔保持のため_____が蒸しタオルで拭いている ④洗面所での「洗顔」を行う習慣がないが(入浴後・ベッド上)で_____に顔をタオルで拭いてもらっている。類似行為で評価し「3.全介助」を選択

「適切」「不適切」を評価していく

行為が発生しない場合類似行為で評価する

◆肩痛・肘痛・手指の痛み(変形)・麻痺・筋力低下・視力・理解・意欲・業務の都合・倦怠感

## 2-9 髪の毛のお手入れをする時は、お手伝いをしてもらっていますか？

※「生活習慣や介護抵抗などしていない」⇒適切な「介助の方法」を選択する

※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

整髪 介助	1. 介助されていない	①自分ですが、時間がかかる ②整髪しやすい自動機を使用 ③事前に_____が誘導すると、後は自分で行っている
一連の行為 「ブラシの準備」 「整髪料の準備」 「髪をとかず」 「ブラッシング」等 ※類似行為評価 頭髪がない場合短髪で整髪がない場合	2. 一部介助 (整髪中の見守り・指示) ※洗面所(鏡)への誘導・移動、洗面所周辺の掃除等は含まない	①_____が、ブラシ・くし・整髪料等を準備すると自分で行う ②少しは自分で行うが不十分。不十分な所を_____が介助 ③自分で行うが、整髪中に_____が見守り・指示をしている(理由は?) ④独居等で介助者がいない。自分で整髪しているが(_____)のため不十分。(後ろ・_____)は介助が必要と考え「2.一部介助」が適切と判断した
	3. 全介助	①_____がすべて整髪している ②頭髪がなく「整髪」は行っていない。(入浴後にベッド上で_____頭を拭く介助は自分ではまったくできず、全介助にて行われており、類似行為で評価し「3.全介助」を選択する

「適切」「不適切」を評価していく

行為が発生しない場合類似行為で評価する

◆肩痛・肘痛・麻痺・筋力低下・視力・理解・意欲・業務の都合・倦怠感

適正な介助かどうかは、介助の理由が重要  
特記事項にも主訴と連動しながら、介助の理由を記入していきましょう。

## 2-7/2-8/2-9：口腔清潔・洗顔・整髪

- 清潔保持系の調査項目における「一部介助」
- 「口腔清潔」「洗顔」「整髪」における「行為の開始を促す声かけ」を「一部介助」に取っていないか。
  - ※「歯を磨きに行きましょうか？」(口腔清潔)など
- 「介助されていない」→「一部介助」により、  
中間評価項目得点は「11.8点」の差が生じる。

基本原則：  
行為を行う場所(洗面所等)へ誘導する「声かけ」は評価対象外  
例外：「排尿」「排便」における行動開始の「声かけ」は「見守り等」を選択する。

### 第2群における「声かけ」の概念

- 「声かけ」における選択
  - 基本原則：  
該当する行為を行う中で発生する「声かけ」は評価対象となる
- 「声かけ」の評価 ※「声かけ」が必要な理由も記載
  - 該当する行為を行う中で発生する「声かけ」
  - 「そのタオルで顔を拭きましょう」(洗顔)
  - 「ボタンが一つずれていますよ」(上衣の着脱)

### 類似行為代替評価項目

生活習慣等によって行為が発生していない場合、以下の4項目は「類似の行為」で評価する。

- ・1-11 「つめ切り」(全指を切断など)
- ・2-8 「洗顔」
- ・2-9 「整髪」(短髪など)
- ・2-11 「ズボン等の着脱」

## 2-10 上衣の着脱はお手伝いしてもらっていますか？

普段使用している上衣 ※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

<b>上衣の着脱</b> 介助 「上衣の着脱」の介助 時機にあった衣服の選択・衣服の準備・手渡し等、着脱までの行為は含まない 「衣服を選ぶ」は5-3とリンク	1. 介助されていない	①自分で着脱するが、時間がかかる（着脱しやすい上衣を使用） ②自動具を使用し自分で着脱している ③事前に（衣服の準備・手渡し・誘導）をすると、後は自分で着脱している
	2. 見守り等	①着脱時に、常時_____が見守り・声かけをしている（理由は？） ②（_____）のため、1枚ずつ声かけしながら上衣を手渡している
	3. 一部介助 ※衣服を手渡す行為は含まない	①途中で自分で着るが、後は_____が介助（ボタンなどを介助） ②片腕のみ（健側）介助すると、後は自分で行う ③_____が着せているが、袖を通すことはできる（右・左） ④独居等で介助者がいない。自分で着脱しているが不十分（状況_____）。 （_____）の介助を行うことが適切と考え「3.一部介助」を選択する
	4. 全介助	①_____が全介助している ②袖を通す際に体を揺らす行為はあるが、_____が着脱全体の介助をしており「4.全介助」を選択する

◆着間違え・着すぎる・肩痛・肘痛・麻痺・筋力低下・視力・理解・意欲・業務の都合・倦怠感

## 2-11 スズボン・パンツ等を着脱する時はお手伝いしてもらっていますか？

普段使用しているズボン・パンツ等 ※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

<b>ズボン等の着脱</b> 介助 「ズボン等の着脱」の介助 時機にあった衣服の選択・衣服の準備・手渡し等、着脱までの行為は含まない 「衣服を選ぶ」は5-3とリンク ※類似行為評価	1. 介助されていない	①自分で着脱するが、時間がかかる（着脱しやすいズボンを使用） ②自動具を使用し自分で着脱している ③事前に（衣服の準備・手渡し・誘導）をすると、後は自分で着脱している ④ズボンを着脱する機会がないが、パンツ（オムツ）の着脱は自分でできる。代替して評価し「1.介助されていない」とする
	2. 見守り等	①着脱時に、常時_____が見守り・声かけをしている（理由は？） ②（_____）のため、1枚ずつ声かけしながらズボンを手渡している
	3. 一部介助 ※衣服を手渡す行為は含まない	①途中で自分で着るが、後は_____が介助（シャツをズボンに入れ直す） ②少し介助すると、後は自分で行う ③_____が着せているが、足を通すことはできる（右・左） ④独居等で介助者がいない。自分で着脱しているが不十分。 （_____）の介助を行うことが適切と考え「3.一部介助」を選択する
	4. 全介助	①_____が全介助している ②足を通す際に体を揺らす行為はあるが、_____が着脱全体の介助をしており「4.全介助」を選択する

◆着間違え・着すぎる・腰痛・膝痛・麻痺・筋力低下・視力・理解・意欲・業務の都合・倦怠感

## 2-12 日頃、おおむね30分以上の外出をしていますか？（居住地の敷地外）

調査日よりおおむね1ヶ月以内

外出頻度 **有無** ※外出の目的や、同行者の有無、目的地等は問わない。自宅・施設の庭も含まない  
 ※療養や救急搬送・同一施設・敷地内のデイサービス・診療所等は外出とは考えない  
 ※過去1ヶ月の間に状態が大きく変化した場合は、変化した後の状況で選択を行う ※7-1リンク

外出する場所は？（無・有）⇒	①病院（過院）	②店（買い物）	③散歩	④通所サービス	⑤	⑥
同行者（介護者）は？	無・有 ( )	無・有 ( )	無・有 ( )	無・有 (職員)	無・有 ( )	無・有 ( )
外出方法は？	徒歩・車	徒歩・車	徒歩・車	徒歩・車	徒歩・車	徒歩・車
外出頻度は？（過去1ヶ月以内）	( )回 /週・月	( )回 /週・月	( )回 /週・月	( )回 /週・月	( )回 /週・月	( )回 /週・月

すべて合計すると… 過去1ヶ月 ( ) 回 / 週・月 ⇒ ※日頃も同じ・多い・少ない

外出頻度は	1. 週1回以上	2. 月1回以上（1～3回）	3. 月1回未満
-------	----------	----------------	----------



### 3 群

#### 3-1 ご家族や介護者の方に、自分の意思を伝えられますか？

※日頃と異なる場合は、日頃の状況で選択する。調査時と日頃の状況は「特記事項」へ

意思の伝達  能力  意思を伝えることができるかどうか  伝達する意思の内容の合理性は問わない	1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる ○常時、誰にでも意思の伝達ができる ○自発的に伝達はしないが、問いかげすれば伝達できる	①言葉 ②筆談 ③文字ボード ④手話 ⑤身振り
	2. とくとき伝達できる ○通常は、介護者等に対して「意思の伝達」ができる ※内容によっては伝達できない時がある ※失語症などで言葉が思うようにならない時がある ※日に 割程度は伝えられるが、他は気持ちを察して介護している ※問いかげしても伝達できない時がある ( ) 割	
	3. ほとんど伝達できない ○通常は、介護者等に対して「意思の伝達」ができない ※ある事柄や特定の人には、まれに伝達できる ※ある事柄(痛い・腹が減った・何か食べたい)等に限定されている	
	4. できない(意思を全く伝えない・伝達できるかどうか判断できない)	

#### 3-2

##### 毎日の日課を理解

※起床・就寝・食事等のおおまかな内容の理解。厳密な時刻、曜日毎のスケジュール等、複雑な内容は含まれない

能力	調査時	日頃	選択肢 (より頻回な状況)
①(ほぼ)正確な回答ができた	①できる	1. できる	
②(正しく)回答できなかった	②とくときできる	2. できない	
③回答の正誤が確認できなかった	③できない		

#### 3-3

##### 生年月日や年齢を言う

※生年月日、数日のずれは「1」  
 年齢は、2歳までの誤差は「1」  
 ( 年 月 日生)( 歳)

能力	調査時	日頃	選択肢 (より頻回な状況)
①(ほぼ)正確な回答ができた (生年月日・年齢)	①できる	1. できる	
②(正しく)回答できなかった	②とくときできる	2. できない	
③回答の正誤が確認できなかった	③できない		

#### 3-4

##### 短期記憶

(面接調査直前又は当日行ったことを思い出す)

能力	調査時	日頃	選択肢 (より頻回な状況)
①(ほぼ)正確な回答ができた	①できる	1. できる	
②(正しく)回答できなかった	②とくときできる	2. できない	
③回答の正誤が確認できなかった	③できない		

上記質問で確認が難しい場合→「ペン」「時計」「視力確認表」を提示し、復唱してもらう。5分後に2つ提示。残り1つは何かを確認

#### 3-5

##### 自分の名前を言う

※旧姓でも可。姓だけでも可。名前だけでも可  
 ※発語はないが強きで確認も「1」  
 名前 ( )

能力	調査時	日頃	選択肢 (より頻回な状況)
①(ほぼ)正確な回答ができた	①できる	1. できる	
②(正しく)回答できなかった	②とくときできる	2. できない	
③回答の正誤が確認できなかった	③できない		

#### 3-6

##### 今の季節を理解する

(春・夏・秋・冬)( 月)  
 ※1月→旧暦「春の初め」でも可  
 ※月日だけの正解は「2」

能力	調査時	日頃	選択肢 (より頻回な状況)
①(ほぼ)正確な回答ができた	①できる	1. できる	
②(正しく)回答できなかった	②とくときできる	2. できない	
③回答の正誤が確認できなかった	③できない		

#### 3-7

##### 場所の理解

「ここはどこですか?」

※「自宅」「施設」などの区別がつけば「1.できる」  
 ※所在地や施設名をたずねる質問ではない

能力	調査時	日頃	選択肢 (より頻回な状況)
①(ほぼ)正確な回答ができた	①できる	1. できる	
②(正しく)回答できなかった	②とくときできる	2. できない	
③回答の正誤が確認できなかった	③できない		

## 有無 BPSD 関連

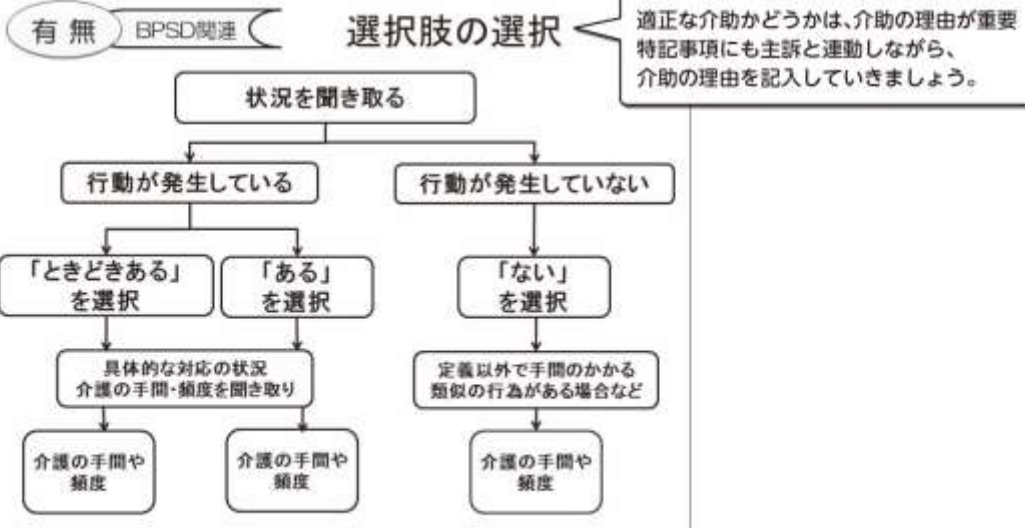
※調査員に医学的判断は求めない

「幻視・幻聴」と「作話」の違いや認知症か、他の精神疾患によるものか等

場面や目的からみて  
「不適当な行動」の  
頻度

- ・有無の項目（BPSD関連）は、  
その有無だけで介護の手間が発生しているかどうかは必ずしも判断できない。
- ・二次判定で介護の手間を適切に評価するため特記事項に、  
それらの有無によって発生している介護の手間を（対応をとっていない場合なども）、  
頻度もあわせて記載する。

### 調査事項の選択肢の選択及び「特記事項」記載の流れ



メモ

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

**精神・行動障害の有無**

- ① 社会生活上、場面や目的からみて不適当な行動の頻度を評価する項目  
一定期間の間で（調査日よりおおむね過去1ヶ月間）の状況において現在の環境で行動が現れたかどうか、聞きとりした日頃の状況で選択する。調査時に実際に行動が見られた場合は「特記事項」に記載する
- ② 基本調査の項目に該当しないものの、類似行為又はその他の精神・行動障害などにより、具体的な「介護の手間」が生じていることが聞きとりで確認された場合類似または関連する項目の特記事項に、具体的な介護内容と頻度を記載する
- ③ それらの有無により発生している介護の手間（頻度・手間時間等）も「特記」へ介護者が特に対応をとっていない場合なども「特記事項」に記載する

1. ない 過去1ヶ月間に1度も現れたことがない	2. とときある 月に1回以上、週に1回未満	3. ある 1週間に1回以上
-----------------------------	---------------------------	-------------------

3群 認知機能		有無		
※予防されている場合は（予防）に○		※行動の頻度		
3-8 徘徊（目的もなく歩き回る・車いすで動き回る・這い回る等）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
3-9 外出すると戻れない（居室や居住棟から出て自室に戻れない等）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週

選択基準（調査日よりおおむね過去1ヶ月間・その間に環境が大きく変化した場合は変化後から調査日まで）

**4群**

4群 精神・行動障害		有無		
※社会生活上、場面や目的からみて「不適当な行動」の頻度を評価				
4-1 物を盗られたなどと被害的になる（被害的な行動を含む）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-2 作話（事実とは異なる話をする・自分に都合のいいように話す等）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-3 涙ぐむ・感情的にうめくなどの状況が、不自然なほど持続する。そくわない場面や状況で突然笑い出す、怒り出す等、感情が不安定になる。	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-4 昼夜の逆転がある（夜に何度も目覚め、疲労等で日中活動できない）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-5 しつこく同じ話をする（場面や目的からみて不適当な行動かどうか）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-6 大声をだす（場面や目的から不適当な行動かどうか）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-7 介護に抵抗する（言っても従わない場合は含まれない）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-8 「家に帰る」等と言い、落ち着きがない （「家に帰りたい」という意思表示+落ち着きのない状態）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-9 一人で外に出たがり、目が離せない	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-10 いろいろなものを集めたり、無断で持ってくる（収集癖）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-11 物を壊したり、衣類を破いたりする （壊れなくても破壊しようとする行動も含む）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-12 ひどい物忘れ （単なる物忘れは含まない。物忘れに起因する行動が起きている。問題の者が何らかの対応をとらなければならないような状況も含む。例・火の不始末等）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-13 意味もなく独り言や独り笑いをする（場面や目的からみて不適当な行動かどうか） 上記行動が持続する。あるいは突然にそれらの行動が現れるなど	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-14 自分勝手に行動する（明らかに周囲の状況に合致しない行動・不適当な行動）	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
4-15 話がまとまらず会話にならない（成立しない）※話下手のことではない 話に一貫性がない・話題を次々と変える・質問に対し無関係な話が続く等	予防	1. ない	2. 回/月	3. 回/週
※調査対象者の状況（意識障害・性格等）、施設等に予防的な対策（昼夜逆転に対する内服等）治療効果を含めて評価				
項目	特記事項（上記は行動の有無でチェック。予防策・介護の手間（頻度・手間時間等）-特に対応をとっていない場合も記載）			

障害や現象（行動）の有無

## 2. 精神・行動障害等

### 特記例

#### 4-3 感情が不安定

談話室などで職員と穏やかに会話していると突然怒り出して収まらなくなる事が、週に1回はあることから「3・ある」を選択する。職員はそのたびにそばにつき添い、なだめるのに手間がかかっている(30分)

介護の手間が有っても無くても特記には記載します。

### STEP2 特記例

審査会委員テキスト P22 【◆5・6項目】

#### ◆感情不安定【ある】

週1回程、何の前触れもなく、突然泣き出すことがあるが、特に対応はとっていない

#### ◆感情不安定【ある】

ほぼ毎日、何の前触れもなく、突然泣き出すことがあり、なだめるのに傍らで15分ほど声かけを行っている



## 5 群

### 5-1 お薬は飲まれていますか？ お薬を飲む時にお手伝いはしてもらっていますか？

内服がない⇒「適切な介助の方法」を選択

※介護状況などで介助ができない⇒適切な「介助の方法」を選択する

※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

※不適切⇒「できる」「できない」といった個々の行為の能力のみで評価せず、生活環境や本人の置かれている状態等も含めて総合的に評価する

薬の内服	1. 介助されていない	①自分で準備して内服している ②あらかじめ薬局で分包されており、自分で内服できている
<b>介助</b> ポイント！ (必ずチェック) ①手元に用意 (薬・水) ②飲む行為 (薬・水) 内服以外は含まない 朝・昼・夕・夜 ※残薬量( )	<b>2. 一部介助</b> (見守り、飲む量の指示等も含む) ※薬局での分包は含まない	①_____が、飲む薬・水を手元に用意する ②_____が、1錠ずつ箱などに入れる ③薬を飲む際に、飲む量の指示等をしている(理由・頻度) ④_____が薬をオブラートに包んで準備している ⑤自分で準備して飲んでいるが、_____が見守りしている(理由・頻度) ⑥独居等で介助者がいない、自分で(準備・内服)ができず薬が残っている。 内服時の(声かけ・返す)の介助が適切と考え「2. 一部介助」を選択する。 ⑦薬は自分で口に入れるが、水は_____が飲ませている(理由)
	<b>3. 全介助</b>	①_____が薬と水を準備し、薬を口に入れている(水も飲ませる) ②経口からの内服はできず、_____が経管チューブから内服薬を注入している
	◆飲み忘れる・飲みすぎ・拒否・こぼす・理解・意欲・麻痺・筋力低下・振戦・視力・業務の都合・倦怠感	

残薬があれば  
全員一部介助ではなく、  
残薬の理由と頻度等も  
確認

### 5-2 立ち入った質問をしますがお許しください。 お金の管理はどうされていますか？

※介護状況などで介助ができない⇒適切な「介助の方法」を選択する

※「実際の介助の方法」の適切・不適切も確認

※不適切⇒「できる」「できない」といった個々の行為の能力のみで評価せず、生活環境や本人の置かれている状態等も含めて総合的に評価する

金銭の管理	1. 介助されていない	①自分の所持金(現金・預金等)の支出の把握や管理を自分でしている ②金融機関からのお金の出し入れは_____がしているが、管理は自分でする ③手元に現金等を所持していないが、年金、預貯金、生活保護等は自分で管理
<b>介助</b> 自分の所持金 (預金や小銭) の支出の把握、 管理、出し入れする 金額の計算等の介助 が行われているか 金銭の出し入れは 含まない	<b>2. 一部介助</b> (見守り・指示)	①小遣い銭として少額のみ管理できるが、他は_____が介助 ②本人がすべて管理。ときどき使った金額を忘れる。計算間違いをするので、_____が確認している ③本人が管理するが_____が経理等の介助をしている
	<b>3. 全介助</b>	①_____がすべて管理 ②能力はあるが金銭を使用する機会がなく、_____がすべて管理している ③金銭の計算ができず、_____が財布に準備しておいたお金の出し入れのみ、自分で行う
	◆計算間違いする・使った金額を忘れる・財布を紛失する・理解・意欲・無関心・視力・業務の都合・倦怠感	

#### 認知症高齢者の日常生活自立度

I	何らかの認知症を有するが、(物忘れ・ )日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立	
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	II a 家庭外で たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理など、それまでできたことにミスが目立つ等 II b 家庭内で 服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など、一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	III a 日中中心 着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声、奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等 III b 夜間中心 夜間を中心に上記の状態が見られる
IV	支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁。常に介護が必要	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。遷延性の意識障害で、認知症高齢者の日常生活自立度が判断不能の場合	
自立・I・II a・II b・III a・III b・IV・M		
選択根拠:		

「など」・・  
買物、金銭管理、  
服薬管理のみで  
判断するのでは  
なく、他の項目を  
含め総合的に  
判断していきます。

※「幻視・幻聴」「暴言・暴行」「不潔行為」「異食行動」等、認定調査項目に含まれていない認知症に関連する症状については、関連する項目の特記事項に記載する。





### 5-4 この1ヶ月間で、家族以外の他者の集まりに参加することを強く拒否したり、適応できない等、明らかに周囲の状況に合致しないような行動がありましたか？

※他者の集まりに参加する機会…有・無（機会がない場合は「1」にチェック）

1. ない	①拒否などもなく、集まり（酒所のレクリエーション等）にも参加している ②性格などで集団に参加するのが苦手。集団に参加する機会もない ③性格的に集団に参加するタイプではない。この1ヶ月、周囲に合致しないような行動もない
2. とときどきある	①月に1・2・3回（具体的エピソード・介護の有無も…）
3. ある	①週に（ ）回（具体的エピソード・介護の有無も…）

### 5-5 食材や消耗品等の日用品の買い物は、どのようにされていますか？

買い物	◆買い物に行く ( 日/週・月 )	◆行かない【(全介助) ( 日/週・月 )	(電話やインターネットで注文) ( 日/週・月 )	(介護者に依頼) ( 日/週・月 )
介助	①②③	①②③	④⑤	④①②③④
	①日用品を選ぶ 介助なし・指示等・介助	②商品を取る 介助なし・指示等・介助	③支払う 介助なし・指示等・介助	④依頼・注文 介助なし・指示等・介助
	⑤依頼者への支払い 介助なし・指示等・介助			
	2つ以上の買い物の状況がある場合は、より頻回な状況で選択する			
自分で購入する場合と家族やヘルパー等の他人に依頼する場合の両方がある場合、より頻回な状況で選択を行う	1. 介助されていない	①買い物に行き、自分で日用品を選び、陳列棚から商品を取り、代金も自分で支払う ②体調が悪い時は、_____が買い物するが(頻度)、体調がよい時はすべて自分で行う(頻度) より頻回な状況で「1. 介助されていない」を選択する ③店舗等に自分で電話をして注文し、自宅へ届けてもらっている		
在宅・施設の場合も、介助が適切かどうかを確認	2. 見守り等	①買い物時(選ぶ・商品を取る・支払う)、_____が確認、指示、声かけをしている(理由) ②独居等で介助者がいない、自分で買い物に行くが、( )の状況であり、 買い物時「声かけ・指示」の介助が適切と考え、「2. 見守り等」を選択する		
	3. 一部介助	①買い物時(日用品を選ぶ・商品を取る・代金を支払う)の一部を_____が介助する(理由) ②自分で買い物をしてくるが、購入したものを、_____が精算・返品等の介助をしている(理由) ③ほしいものは自分で指示し、買い物は_____が介助する。支払いは_____がする。		
	4. 全介助	①ほしいものを依頼することでもできず、すべて(家族・ヘルパー・施設側)が買い物に行く ②自分で、( )等を買うことがあるが、_____がすべて購入するほうが多く 「4. 全介助」を選択する		
	◆同じ物を購入・選べない・商品が取れない・計算ができない・視力・痛み・麻痺等・認知・無関心・倦怠感			

買い物の仕方を確認

買い物毎の一連の行為を確認

2つ以上の買い物の状況があればより頻回な状況で選択

### 5-6 ご飯を炊いたり、お弁当や惣菜等の加熱はどのようにされていますか？

※配膳・下膳・食材の買い物・お茶、コーヒーの準備は含まない  
※昼食栄養で確認の必要のない流動食のみ該当されている場合、簡単な調理の介助はなく、「1. 介助されていない」  
※流動食の温め等を行っている場合は、「レトルト食品の加熱」に該当するとして、介助の方法を評価する  
※施設側でこれらの行為が施設職員によって代行されている場合は、施設職員の対応の状況に基づき選択する  
※弁当やレトルト食品、惣菜めんを食べることがない場合でも「炊飯」行為が行われていれば「炊飯」について評価。  
「炊飯」が施設で一括で行われている場合、家族の食事と一緒に調理が行われていれば、生活環境や本人の置かれている状態等も含めて総合的に評価する

簡単な調理	〈行為の有・無〉有の場合、⇒ 右へ進む			
炊飯	無・有 ⇒ 介助されていない	見守り等(確認・指示・声かけ)	介助(家族・施設・ )	
弁当や惣菜の加熱 レトルト食品の加熱 冷凍食品の加熱	無・有 ⇒ 介助されていない ※加熱はすべからず冷たい弁当の場合適切かどうかを評価する	見守り等(確認・指示・声かけ)	介助(家族・施設・ )	
即席めん調理	無・有 ⇒ 介助されていない	見守り等(確認・指示・声かけ)	介助(家族・施設・ )	
簡単な調理は	1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助

※体調等によって介助の方法が異なる場合、おおむね過去1週間の状況

## その他の医療

【過去14日間にうけた特別な医療】を確認します。医師の指示で看護師等によって今後も継続される行為はありますか？						
①急性疾患への一時的な医療行為は含まれない	実施	実施場所	医師の指示 (重要)	実施者 (特記)	実施頻度 (特記)	直近実施日 (重要)
①点滴の管理 (継続的なものは含まれない)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
②中心静脈栄養	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
③透析 (血液透析・重炭酸透析)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
④ストーマ (人工肛門) の処置 (痔瘻・パグ交換)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑤酸素療法 (看護師等によって実施される行為のみ)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑥レスピレーター (人工呼吸器) 経鼻・経口・気管切開の有無は問わない	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑦気管切開の処置 (右下を確認)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑧褥瘡の看護 (右下を確認)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑨経管栄養 (栄養補給のみ。投薬目的は含まない)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑩モニタリング (24時間以上連続)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑪血圧・心拍・心電図・呼吸数・酸素飽和度の1項目以上 (大きさや程度は問わない)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑫カテーテル (尿の排泄のためのカテーテル)	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日
⑬コンドームカテーテル・留置カテーテル・ウロストーマ・腸欠陥尿・腎ろう	無・有	自宅・病院 ( )	無・有・不明	医師・看護師 ( )	/月・週	月 日

- ①点滴の管理  
針のみ留置し、実際に点滴されていないにもかかわらず状況の変化に応じた体制があれば「ある」
- ②中心静脈栄養  
現在栄養が供給されていないにもかかわらず状況の変化に応じた体制があれば「ある」
- ③気管切開の処置  
カニューレの交換・開口部の消毒・ガーゼ交換・開口部からの瘻液吸引など
- ④褥瘡の看護  
想定される褥瘡の範囲は、がん末期のペインコントロールに相当するひどい痛みであり、これらの範囲に対し、鎮痛薬の点滴・硬膜外持続注入・産薬・貼付型経皮吸収剤・注射が行われている場合とする  
\*含まれないもの(内服治療、電気治療、さする、一時的な薬湯、マッサージ、声かけ、創傷痛などの痛み止め注射や塗布等)
- ⑤モニタリング  
心モニタリングを24時間以上継続・血圧測定の場合は1時間に1回以上のものに限る  
⑥じょくそう・・・完治していても医師の指示で看護師等が予防の処置をする場合も含む

項目	当該医療行為を必要とする理由 (特記事項に必要)

過去14日以内に受けた医療 ◆医療従事者への問い合わせは適切ではない◆  
 ※医師、または医師の指示に基づき看護師等によって実施される行為に限定される  
 ※医師の指示が過去14日以内に行われているかどうかは問わない  
 ※サービスを提供する機関の種類は問わない  
 ※家庭、介護施設で行う類似の行為は含まないが、「7. 緊急処置の処置」における開口部からの瘻液吸引(気管カニューレ内部の瘻液吸引に限る)及び「9. 経管栄養」については、必要な研修を受けた介護職員が医師の指示の下に行う行為も含まれる。

厚生労働省 認定調査員能力向上研修会 事例



**取扱注意**

**介護認定審査会資料**

**事例5：要介護3**

台議体番号：000001 No. 5

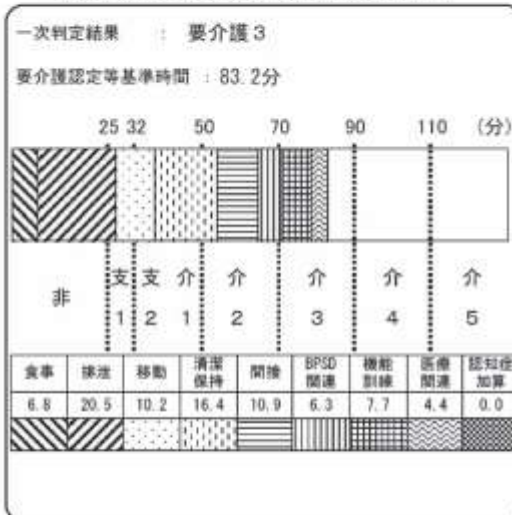
平成〇年〇月〇日 作成  
平成〇年〇月〇日 申請  
平成〇年〇月〇日 調査  
平成〇年〇月〇日 審査

被保険者区分：第1号被保険者 年齢：70歳 性別：女  
申請区分：更新申請 前回要介護度：要介護3

現在の状況：認知症対応型共同生活介護  
前回認定有効期間：12月間

**1 一次判定等**

(この分数は、実際のケア時間を示すものではない)



警告コード：

**3 中間評価項目得点**

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
51.5	64.2	100.0	85.3	19.8

**4 日常生活自立度**

障害高齢者自立度：B2  
認知症高齢者自立度：I

**5 認知機能・状態の安定性の評価結果**

認知症高齢者の日常生活自立度  
認定調査結果：I  
主治医意見書：II a  
認知症自立度II以上の蓋然性：81.9%  
状態の安定性：不安定  
給付区分：介護給付

**6 現在のサービス利用状況(介護給付)**

訪問介護(ホームヘルプサービス)	0日/月
訪問入浴介護	0日/月
訪問看護	0日/月
訪問リハビリテーション	0日/月
居宅療養管理指導	0日/月
通所介護(デイサービス)	0日/月
通所リハビリテーション	0日/月
短期入所生活介護(ショートステイ)	0日/月
短期入所療養介護	0日/月
特定施設入居者生活介護	0日/月
福祉用具貸与	0品目
特定福祉用具販売	0品目/6月間
住宅改修	なし
夜間対応型訪問介護	0日/月
認知症対応型通所介護	0日/月
小規模多機能型居宅介護	0日/月
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	31日/月
地域密着型特定施設入居者生活介護	0日/月
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護	0日/月

**2 認定調査項目**

	調査結果	前回結果
<b>第1群 身体機能・起居動作</b>		
1. 肩痛(左-上肢) (右-上肢) (左-下肢) (右-下肢) (その他)	ある ある	-
2. 拘縮(肩関節) (肘関節) (膝関節) (その他)	-	-
3. 寝返り	できない	-
4. 起き上がり	できない	-
5. 座位保持	自分で支えれば可	-
6. 両足での立位	支えが必要	-
7. 歩行	つかまれば可	-
8. 立ち上がり	できない	-
9. 片足での立位	支えが必要	-
10. 洗身	全介助	-
11. つめ切り	全介助	-
12. 視力	-	-
13. 聴力	-	-
<b>第2群 生活機能</b>		
1. 移乗	一部介助	-
2. 移動	一部介助	-
3. えん下	-	-
4. 食事摂取	-	-
5. 排便	一部介助	-
6. 排尿	全介助	-
7. 口腔清潔	一部介助	-
8. 洗顔	-	-
9. 髪髪	-	-
10. 上衣の着脱	一部介助	-
11. ズボン等の着脱	全介助	-
12. 外出履鞋	-	-
<b>第3群 認知機能</b>		
1. 意思の伝達	-	-
2. 毎日の日曜を理解	-	-
3. 生年月日をいう	-	-
4. 短期記憶	-	-
5. 自分の名前をいう	-	-
6. 今の季節を理解	-	-
7. 場所の理解	-	-
8. 排便	-	-
9. 外出して戻れない	-	-
<b>第4群 精神・行動障害</b>		
1. 被害的	ときどきある	-
2. 作証	ときどきある	-
3. 感情が不安定	-	-
4. 昼夜逆転	-	-
5. 同じ話を繰り返す	-	-
6. 大声を出す	-	-
7. 介護に抵抗	ある	-
8. 落ち着きなし	-	-
9. 一人で出たがる	-	-
10. 収集癖	-	-
11. 物や衣類を壊す	-	-
12. ひどい物忘れ	-	-
13. 袖り當、袖り臭い	-	-
14. 自分勝手に行動する	-	-
15. 話がまとまらない	-	-
<b>第5群 社会生活への適応</b>		
1. 家の内観	全介助	-
2. 金銭の管理	全介助	-
3. 日常の意思決定	特別な場合以外可	-
4. 集団への不適応	-	-
5. 買い物	全介助	-
6. 簡単な調理	全介助	-
<b>&lt;特別な医療&gt;</b>		
点滴の管理	気管切開の処置	-
中心静脈栄養	疼痛の管理	-
透析	経管栄養	-
ストーマの処置	モニター測定	-
酸素療法	じょくそうの処置	-
レスピレーター	カテーテル	-

調査日 平成〇年 〇月 〇日

## 認定調査票（特記事項）

できれば「病名」よりも「主訴」を記入していきましょう。  
「病名」は主治医意見書に記入しています。

### 概況

グループホームに入居中。夫とは離別している。約1年半前に右大腿骨頸部骨折にて入院し手術を行い、1年前に退院した。施設内は概ね歩行器につかまり移動できるが、パーキンソン病で身体状況に変動があり、四肢の固縮や無動等がある。徐々に動きが悪くなっており、特に昼食時は動きが緩慢になる。職員は心身状況に応じて介助を行う。理解力や短期記憶の大きな低下はないが、精神状態が不安定で、昨年より職員の介助を拒む等の行為が見られている。

### 1 身体機能・起居動作に関する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無 1-2 拘縮の有無 1-3 寝返り 1-4 起き上がり 1-5 座位保持 1-6 両足の立位 1-7 歩行 1-8 立ち上がり 1-9 片足での立位 1-10 洗身 1-11 つめ切り 1-12 視力 1-13 聴力

(1-1～1-9) 調査時は体調が良く、危険も無いとの事で同意が得られ、確認動作を実施する。全て日頃も同様。

(1-1) 両上肢は筋力低下や動作の緩慢さがあり、洗身や更衣では介助が必要であるが確認動作は行えた。

両下肢は床から5cmほどの舉上であり、移動等に介助を要す。

(1-2) 四肢と体幹の固縮がある。日内変動があり、両肩、両膝、両股関節、両肘、両手指等、他動で可動域制限がある時と動かせる時がある。現在は他動で動かせる時の方が多く、全て「1.ない」を選択する。

(1-3) 四肢と体幹の固縮・無動があり、寝返りは全くできない。体位交換は行っていない。

(1-4) 自分では起き上がれず、職員が抱えて起こしている。

(1-5) 右手で座面のマットをつかみ、左手でベッド欄を持つと10分程度は座位保持ができる。

「2.自分で支えれば可」を選択する。10分以上は左後方へ傾き、背もたれ等の支えが必要である。

(1-6) サークル型の歩行器につかまれば10秒立位保持できた。週2～3回、立位が不安定な時は職員が支えるが、より頻回な状況で「2.支えが必要」を選択する。

(1-7) サークル型の歩行器につかまれば、ゆっくりと歩行できた。前屈み姿勢で左へ傾き、突進現象もある。

(1-8) 自分で立ち上がれず、職員がズボンの後ろをつかんで引き上げている。「3.できない」を選択する。

(1-9) サークル型歩行器につかまれば、右足を床から1cm上げられた。「2.支えが必要」を選択する。左足は上げられなかった。

(1-10) 週3回シャワー浴。タオルを持たせても動作が緩慢で自分で洗えず、全て職員が洗っている。「全介助」を選択する。

(1-11) 四肢の固縮のため自分で切れず、爪切りの準備もできない。手足の爪とも職員が切っている。

(1-12) 眼鏡を使用し、小さな文字が読める。日頃も同様。

(1-13) 普通の声が聞き取れる。日頃も同様。

### 2 生活機能に関する項目についての特記事項

2-1 移乗 2-2 移動 2-3 えん下 2-4 食事摂取 2-5 排便 2-6 排便 2-7 口腔清潔 2-8 洗顔 2-9 整髪 2-10 上衣の着脱 2-11 スポン等の着脱 2-12 外出頻度

(2-1) 移乗の機会は夜間のベッドからポータブルへの移乗である(2～3回)。寝返り起き上がりができず、職員がベッドから抱えて起こし、ズボンの後ろをつかんで引き上げ、腰を支えて座らせており「3.一部介助」を選択した。2群の介助時に暴力を振るわれる時もあり、職員も精神面に配慮しながら介助している。

(2-2) 施設内のトイレ(4～5回)・洗面所(1回)・食堂(3回)・浴室(週3回)・自室等はサークル型の歩行器につかまり移動する。移動時に突進現象もあり、常に職員が側で見守る。左後方へ体が傾いて危険な時は、職員が後ろから体を支える介助をする(6回/日)。より頻回な状況で「3.一部介助」を選択する。屋外は車椅子で全介助で移動する。

(2-3) えん下はできる。歯の治療を行っており、粥とキザミ食を食べている。

(2-4) 朝と夕はスプーンを使い自分で食べる。昼は動きが悪くなり自分で食べないので職員が全て介助する(30分)。より頻回な状況で「1.介助されていない」を選択する。

(2-5) 尿意はありコールを押される。日中(4～5回)はトイレ、夜間(2～3回)はポータブルで排泄。日中・夜間とも座ったまま自分で拭くが、立位時は両手で手すりにつかまっており、ズボンの上げ下げと量のトイレの水洗(毎回)、夜間のポータブルの後始末(翌朝一括)は職員が行う。「3.一部介助」を選択する。失禁やトイレの汚しはない。

(2-6) 便秘気味であり看護師が産薬を挿入し、3日に1回トイレで排便する。ズボンの上げ下げや水洗を職員が行い、拭く行為は自分で行うが、排便時は十分に拭けず、本人の依頼で職員が拭き直す。「4.全介助」を選択する。失禁はない。

(2-7) 自由2本で義歯を使用。朝夕は職員がブラシに歯磨き粉をつけると、自分で義歯を出し入れし、自由・義歯の洗浄を行う。昼は動きが悪くなるため、義歯の出し入れのみ自分で行い、自由・義歯の洗浄は職員が行う。職員が口にコップをあてるとうがいを行う。朝昼夕いずれも「2.一部介助」が必要である。

(2-8) 洗面台に寄りかかり、自分で顔を洗う。タオルも持ち、自分で拭いている。「1.介助されていない」を選択する。立位が不安定な時が週2～3回あり、その時は職員が体を支えている。

(2-9) ブラシは洗面台に置いており、洗顔した時に自分で整髪する。立位が不安定な時が週2～3回あり、その時は職員が体を支えている。

(2-10) 入浴時(週3回)のみ更衣する。動きが緩慢で、職員が衣類を被せたり肩から掛ける介助を行うが、袖に手を通すことはできる。「3.一部介助」を選択する。

(2-11) 職員が足元でズボンを広げて自分で足を通すことはできない。職員が足首をつかんでズボンに足を通している。ズボンの引き上げともに介助が必要であり「4.全介助」を選択した。

(2-12) 週2回、外来リハビリへ病院職員の送迎で通う。月1回、娘の送迎で病院受診し、帰りに買物や夕食をして帰宅する。いずれも娘が車椅子介助で移動する。



### 3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達 3-2 毎日の日課を理解 3-3 生年月日を言う 3-4 短期記憶 3-5 自分の名前を言う 3-6 今の季節を理解 3-7 場所の理解 3-8 徘徊 3-9 外出して戻れない

(3-1) 調査時は声が低くて小さく、聞き取りにくかったが、全ての質問に適切な返答があり、意思の伝達はできていた。日頃も意思の伝達はできると聞き取り「できる」を選択した。

(3-2) 起床・食事・テレビ・入浴・就寝時間を正答できた。月日や曜日も理解できる。日頃も同様。

(3-4) 訪問直前はテレビを見ており、正答だった。日頃も短期記憶は問題ないと職員から聞き取り「できる」とした。調査時は、数時間前に食べた朝食の献立まで答えることができた。

(3-3, 5, 6, 7) 生年月日、年齢、姓名、季節、ホーム名まで全て正答。日頃も同様。

(3-8, 9) 該当する行動はない。【1～9全て日頃の状況を職員から確認】

### 4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的 4-2 作話 4-3 感情が不安定 4-4 昼夜逆転 4-5 同じ話をする 4-6 大声を出す 4-7 介助に抵抗 4-8 落ち着きなし 4-9 一人で出たがる 4-10 収集癖 4-11 物や衣類を壊す 4-12 ひどい物忘れ 4-13 独り言・独り笑い 4-14 自分勝手に行動する 4-15 話がまとまらない

(4-1, 2) 以前よりは少なくなったが、「パンツが汚いのは誰かが履いていたからだ」「ズボンやお金を盗まれた」等、事実と異なる事を言われることがあり(月1～2回)。「ときどきある」を選択した。職員は話を聞いて事実を説明するが、本人が納得しないため、本人の気がそれるまで別の話題の話をしており、対応に時間がかかる(30分)。

(4-4) 医師の診察や薬の変更などをきっかけに、心配や不安で夜眠れなくなることがある(月2回程度)。その際、職員は付き添い、眠れるまで話をしている(15分程度)。その後は安眠され、昼夜逆転もなく「1. ない」を選択する。

(4-7) 自分の体調や子どもの事などで不安に思い悩んでいる時は、介助しようとする職員に暴力(手をたたく、足をける等)をふるったり、「薬が効かないので、飲まない」等と言われる(週2～3回)。職員は本人が落ち着くまで寄り添い、本人の不安な気持ちを傾聴している(1時間)。

(4-3～6, 8～15) 他も全て該当する行為はない。【職員に確認】

### 5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服 5-2 金銭の管理 5-3 日常の意思決定 5-4 集団への不適応 5-5 買い物 5-6 簡単な調理

(5-1) 朝と夕方の2回の内服。内服薬があることは理解しているが、精神状態が不安定なため職員が内服管理している。上肢の関節等で薬をこぼすため、薬と水の準備、薬を口に入れるまで介助をしており「全介助」を選択する。水は自分で飲まれている。

(5-2) 簡単な計算はできるが、「お金を盗られた」等と精神状態が不安定になるため、金銭管理は全て娘が行う。

(5-3) 日々の日課の理解はあり、排泄時にコールを押ししたり、洗面、テレビ等の意思決定、外来リハビリに行くことの意味決定もできる。施設に入居していることも理解できているが、精神状態が不安定で医師の治療方針の合意等には十分な理解ができず、家族の指示や支援が必要である。「2. 特別な場合を除いてできる」を選択する。

(5-4) 職員に「パンツが汚いのは誰かが履いていたからだ」「ズボンやお金を盗まれた」等の言動が見られるが、他の入居者に対して言われることはない。入居者同士のトラブル等はなく「1. ない」を選択する。

(5-5) 入居中であり、全ての食材や日用品は職員と家族が購入している。月1回、娘の送迎で買物に行き、自分でおやつ等を選び、娘が支払いをするが、より頻回な状況で「全介助」を選択する。

(5-6) 立位や移動も困難で、職員が炊飯・調理の介助を全て行う。

### 6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

1～12 全て該当なし 【職員に確認】

### 7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度) 7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

(7-1) 固縮や突進現象等もあり、移乗、移動共に見守りや介助を要す。日常生活は部分的に介助が必要であり、外出も介助が必要である。「B2」を選択した。

(7-2) 精神状態が不安定で被害妄想が見られ、金銭や内服管理の介助を受けるが、意思疎通はでき、月日や曜日、季節、場所の理解もでき、短期記憶の低下もないことから「1」を選択した。

## 第5章 認定調査員 評価シート

---

- 次頁は、認定調査時の聞き取りと特記事項の記入内容を評価するために作成した評価シートである。認定調査時の聞き取りや特記事項で不足が多いものを評価項目としているが、これらが適正化のためのポイントの全てではないことに留意していただきたい。

認定調査員評価シート 【認定調査時の聞き取りと特記事項の記入内容を詳細していくシートです】

年 月 日  
 評価者名:

※このシートは「認定調査時の聞き取り、及び「特記事項」の不足が多いものを優先して空欄に設定しています。  
 以下の内容が適正化ポイントの全てではありません。  
 ※「特記事項」に記入があれば○、「少し記入があれば△」、「特記事項」に記入が無ければ●等を記入していきます。 著作権 ©SEO財団 福祉サービス評価様式(Ver.12.0)

評価項目	調査員名	記入例 ○○△△	1	2	3	4	5
			認定調査時 同行が可能な場合	①提出会社（は補填後の複製） ②伝わる質問 ③問の取り方 (74項目全て調査（一部確認動作） ④適宜説明（事実を聞き取る） ⑤ご本人の体調確認 ⑥思い込み防止対策 ⑦内容整理 ⑧その他（ ）	○		
概況調査	主観・視察・器用 家族状況 就業状況 等	○					
特記事項 全般	各項目の特記事項は全て記入（過剰記の扱扱）	●					
	74項目全ての記録・説明基準・留意点等の理解	△					
	審査委員会に伝わる特記事項 ※伝わらない場合、理由は？	△					
有様 1-1 1-2 (安全配慮を第一)	1-1 実情・未実施の記録 未実施の理由	●					
	1-2 障礙動作の理解	○					
	共通 日頃の状況の特記事項	●					
	「その他」の調査	○					
	1-1 「隠匿・恐しい」等、テキストの留意点の理解と伝わる特記事項	△					
1-2 主治医意見書が取得できる場合 意見書との不一致状況 ※意見書と実態異なる 例 意見書は初回前段階に付が「1-2は未記入」等 理由は？	●						
能力 (安全配慮を第一)	実施記録 1数	●					
	3数	●					
	目標の能力 1数	●					
	3数	●					
	能力評価の状況（日頃の能力を含め） 「できない理由」「つかえる理由」「苦もたれが必要を理由」の記入	●					
3-4 3品確認の正しい調査方法	○						
5-3 等 ケアプラン、ケア内容（サービス）の確認と意思決定 「理解できない理由」「意思決定できない理由」 ※ 5-3も能力の評価値	△						
介助の方法	見守り等、一部介助、全介助の理由 聞き取りは？ 特記事項は？ ※介助理由が記入できている項目 ※介助理由が未記入の項目	●					
	ご本人ができること（できそうなこと）	○					
	より頼りな場合の選択（傾度）	●					
	一連の行為の理解	△					
	一連の行為以外の介助の手間（手間量）の特記事項	●					
	行為が発生しない場合の調査方法	●					
	類似行為の特記	●					
	不適切評価 介助が不足（他属等） 行われている介助が「自立を阻害」	●					
	2-1 移居の機会が多い場合の調査方法及び特記事項	●					
	2-2 全ての移動場所 個々の移動履歴	●					
		個々の移動状況	△				
	手回量	●					
2-4 聴覚等の食事摂取状況 食事時間（手回量）	●						
2-5 服薬の状況 歩行履歴 手回量 車椅子等の選択 失禁の管理（傾度） 失禁の原因 適切な介助	△						
2-6 傾度 手回量	△						
他の項目 事前の声かけ？ 行為の途中の声かけ？ 声かけの理由	●						
有様 BPSD関連	場面や目的からみて不適切な行動	○					
	傾度	△					
	介助の手間の有無 介助の手間時間	●					
特記事項 (過去14日間)	実行者	○					
	実施理由	●					
	頻度・最終実施月日 継続して実施されているもの	●					
項目間の矛盾	日常生活自立度の傾度（7-1-7-2）	△					

令和2年度老人保健事業推進費等補助金  
(老人保健健康増進等事業分)  
認定調査員初任者の指導方法等に係る調査研究事業

報 告 書

令和3(2021)年4月  
みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 社会政策コンサルティング部  
住 所：〒101-8443 東京都千代田区神田錦町2-3  
電話番号：03-5281-5404